

令和5年度第3回寒川町子ども・子育て会議 会議次第

日 時 令和6年3月26日（火）

午前10時から

場 所 シンコーススポーツ寒川アリーナ3階会議室A・B

1 開会

2 議事録承認委員の指名

3 議題

（1）子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査の集計結果（速報）について

資料1－1 資料1－2

（2）その他

① 幼稚園型認定こども園開所に向けた動きについて

4 閉会

【資料】

- ・資料1－1 寒川町子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告（速報）
- ・資料1－2 寒川町子ども・子育て支援事業（児童クラブ）に関するニーズ調査報告（速報）
- ・資料2 倉見幼稚園の認定子ども園化について

寒川町子ども・子育て会議委員名簿

令和5年10月1日現在

任期:令和5年4月1日～令和7年3月31日

	職	氏 名	備 考
1	委 員	小林 麻子	公募町民
2	委 員	石井 夕紀	子育て当事者
3	委員長	磯川 浩	学識経験者
4	委 員	志賀 愛子	学識経験者
5	副委員長	佐藤 さなえ	保育園代表
6	委 員	藤崎 咲子	NPO法人寒川学童保育会
7	委 員	毛藤 まゆみ	学校関係者
8	委 員	白岩 しのぶ	主任児童委員
9	委 員	和田 裕美子	子育て支援センター
10	委 員	菅原 文久	平塚保健福祉事務所茅ヶ崎支所
11	委 員	栗山 仁	県中央児童相談所

事務局	
学び育成部長	伊藤 研
子育て支援課長	宮崎 彰夫
子ども家庭担当	木下 暁美 遠藤 かおり 早川 萌
のびのびすくすく担当	野呂 三佐子 加藤 美里 熊倉 義人
保育幼稚園課長	徳江 理恵
保育幼稚園担当	川部 雅人 中村 舞
学び推進課長	芝崎 雅恵
青少年育成担当	守屋 ゆかり

寒川町
子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査報告
(速報)

I 調査の概要

1 調査対象者等

調査対象者	就学前児童を持つ保護者
調査件数	1,804 件
調査内容	家族状況、就労状況、日常的な幼稚園・保育施設等の利用、育児休業の取得状況等

2 調査の実施方法と配付・回収状況

(1)調査時期と調査方法

調査時期:令和5年11月～12月

調査方法:郵送により調査票を配付、郵送・Web・回収箱により回収

(2)調査票の配付・回収状況

調査票による 配付・回収状況は以下のとおりです。

調査対象地区	配付数	回収数	回収率
町全域	1,804 件	704 件	39.0%

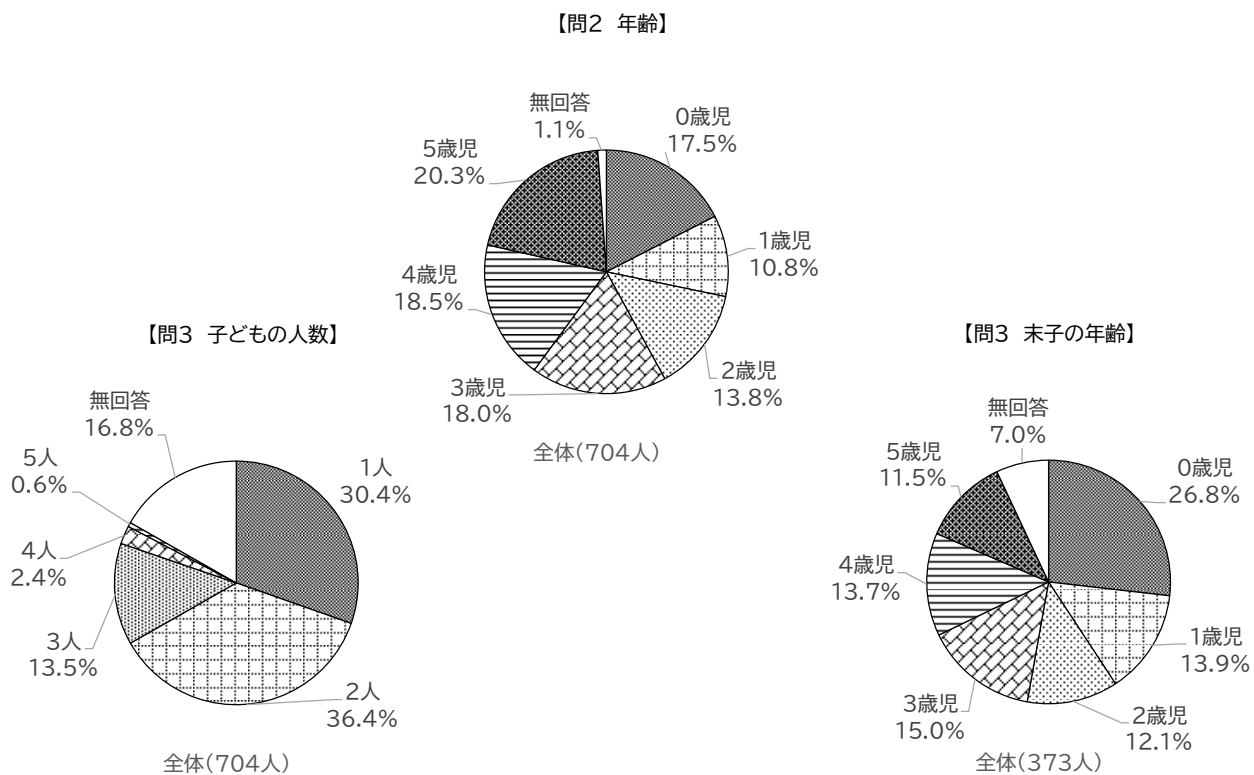
3 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳を合計しても 100%に合致しない場合があります。

4 調査対象者の属性・家族状況

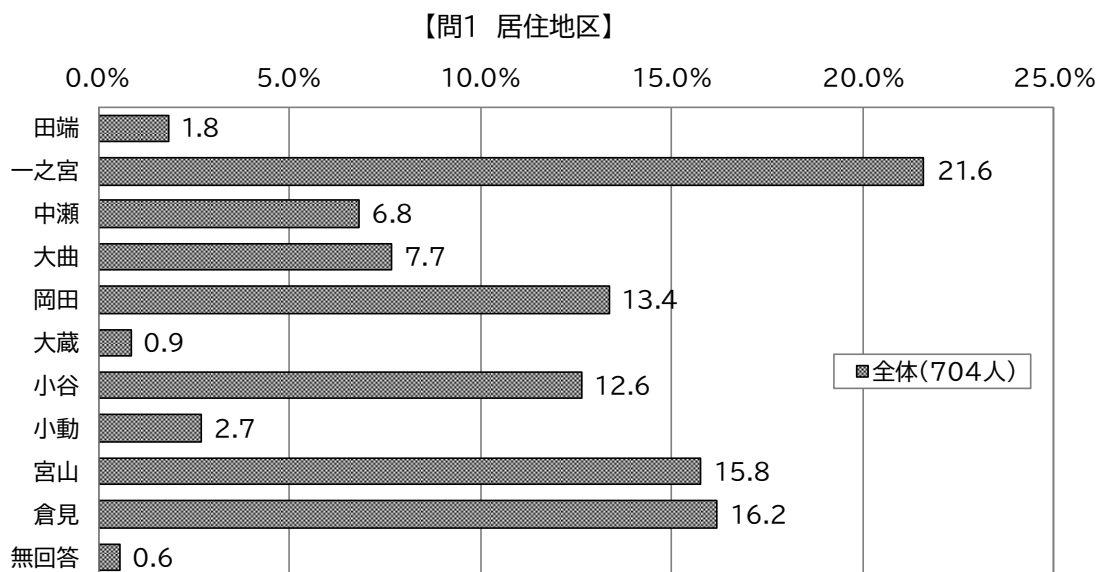
(1)就学前児童の属性

回答された就学前児童の属性は以下のとおりです。



(2)居住地区の状況

回答者が居住している地区は、「一之宮」が21.6%で最も高く、次いで「倉見」16.2%、「宮山」15.8%の順となっています。

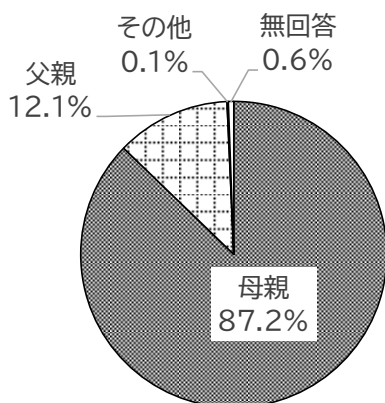


(3)調査回答者の状況

調査回答者は、「母親」が 87.2%、回答者の配偶者については 94.6%が「配偶者がいる」と回答しています。

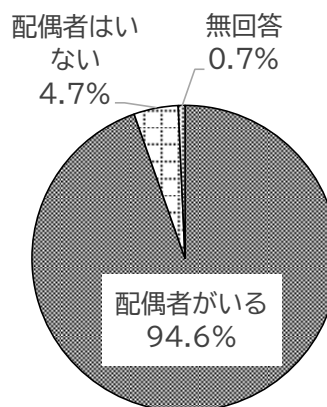
また、子育てを主に行っている人は、「父母ともに」が 58.5%、「主に母親」が 40.2%となっています。

【問4 回答者】



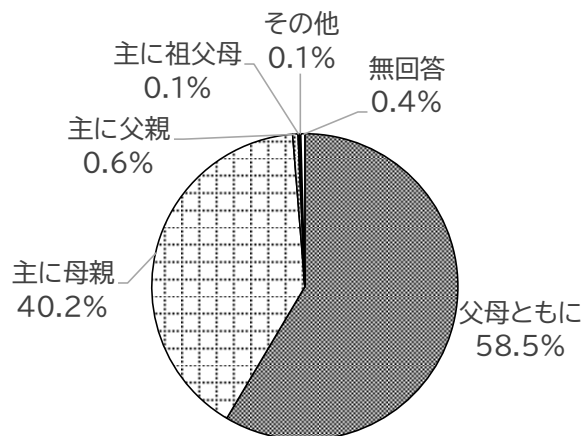
全体(704人)

【問5 回答者の配偶者】



全体(704人)

【問6 子育てを主に行っている人】



全体(704人)

Ⅱ 調査結果

1 子育ての環境について

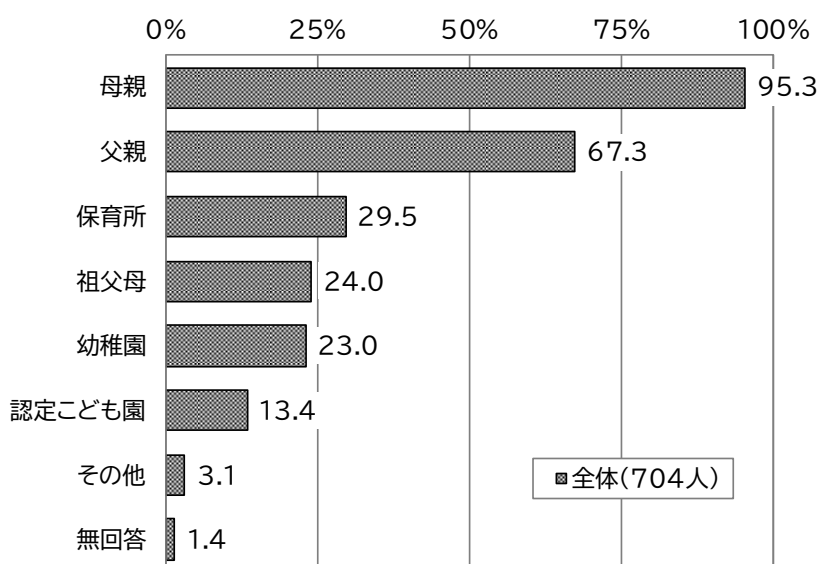
子育てに日常的に関わっている人は「母親」が 95.3%、「父親」が 67.3%となっています。

子育てに影響を与えると思う環境は「家庭」が 90.3%と最も高くなっています。

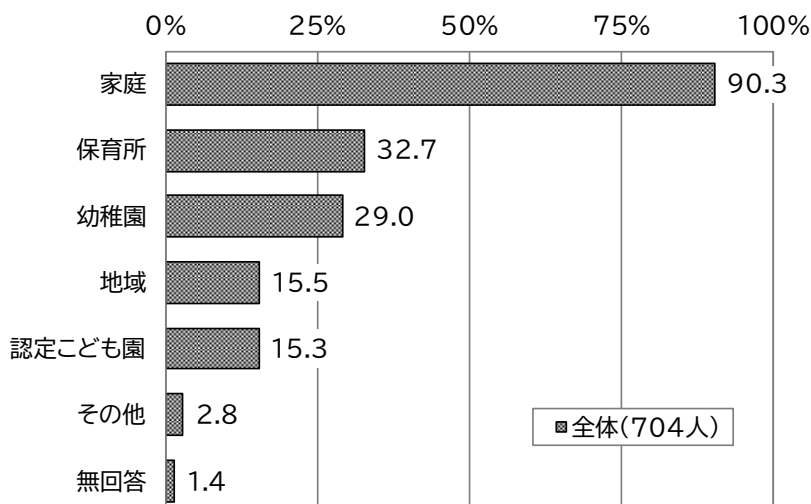
子どもをみてもらえる親族・知人については「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」割合が 56.7%で、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」割合は 21.7%となっています。

気軽に相談できる人が「いる」割合は 80.4%で、相談先は「祖父母等の親族」が 80.6%、「友人や知人」が 74.4%となっています。

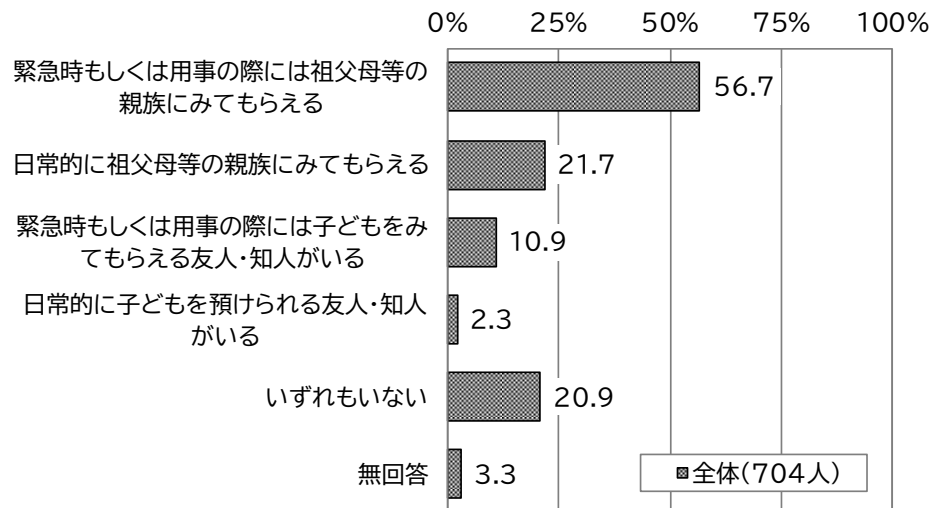
【問10 子育てに日常的に関わっている人】



【問11 子育てに影響する環境】

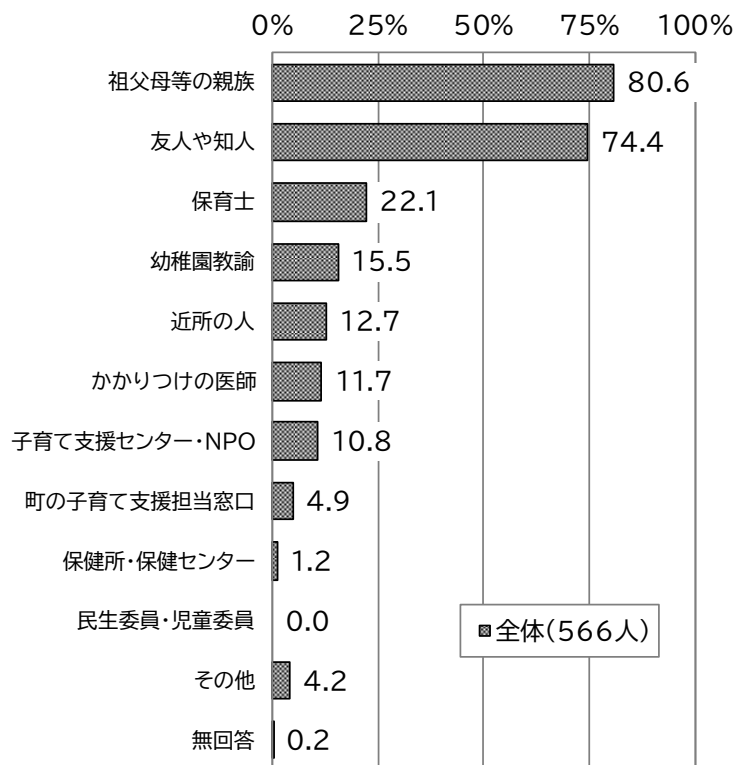
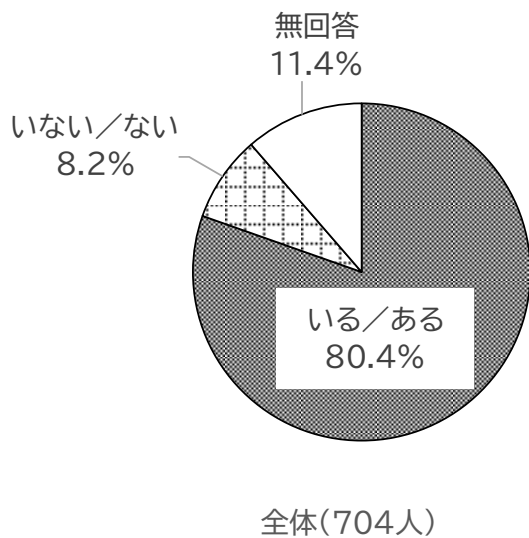


【問12 お子さんをみてもらえる親族・知人】



【問13 気軽に相談出来る人・場所の存在】

【問13-1 子育てに関するの気軽な相談先】



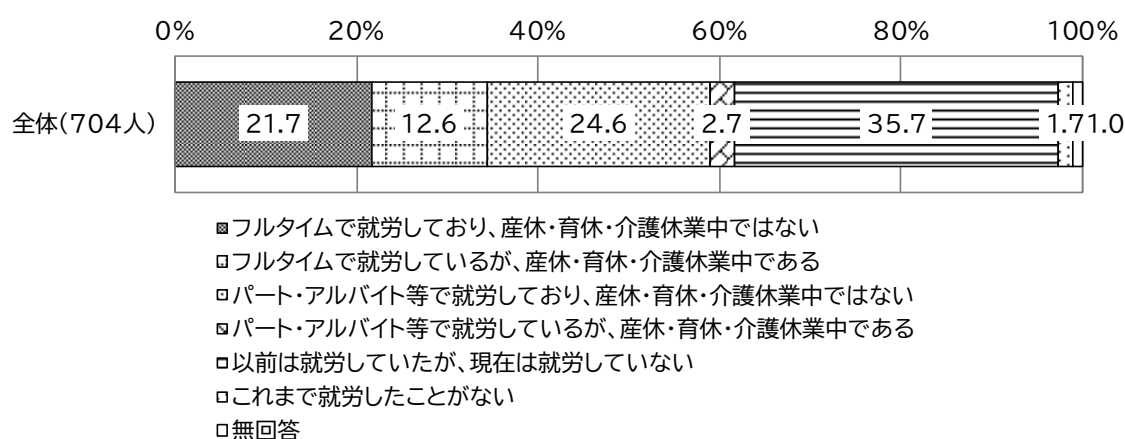
2 保護者の就労状況について

(1) 母親の就労状況

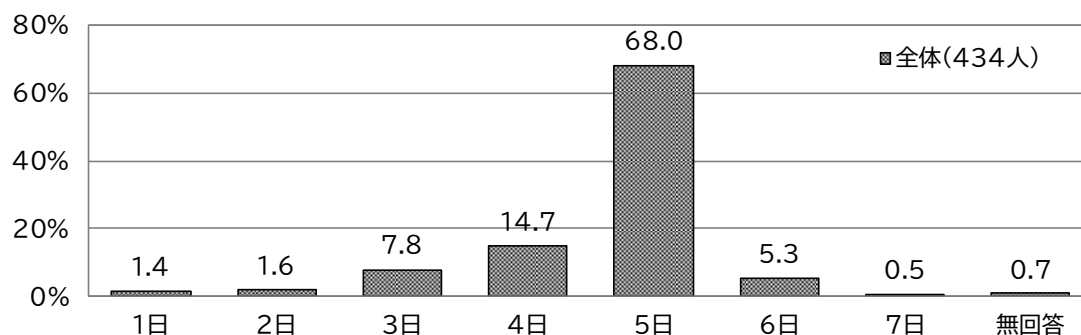
「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 35.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、休業中ではない」が 24.6%、「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が 21.7%となっています。

週当たりの就労日数は「5日」が 68.0%、1日当たりの就労時間は「8時間」が 37.1%で高くなっています。

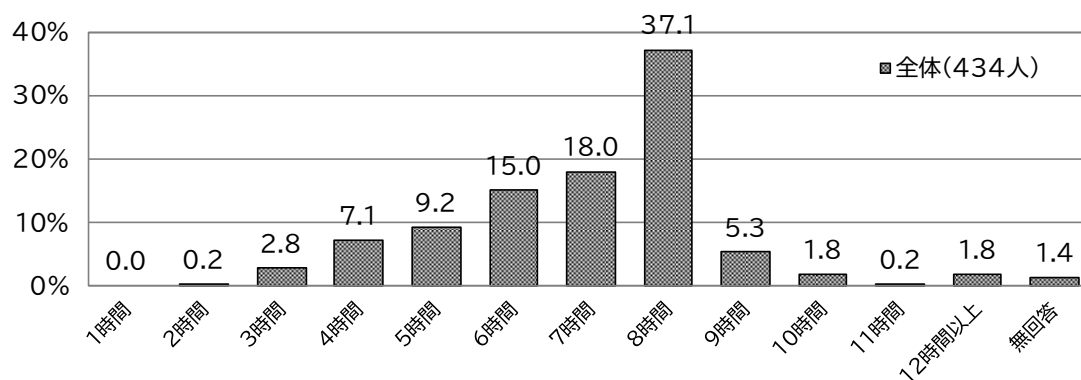
【問15(1) 母親の就労状況】



【問15(1)-1 母親 週当たりの就労日数】



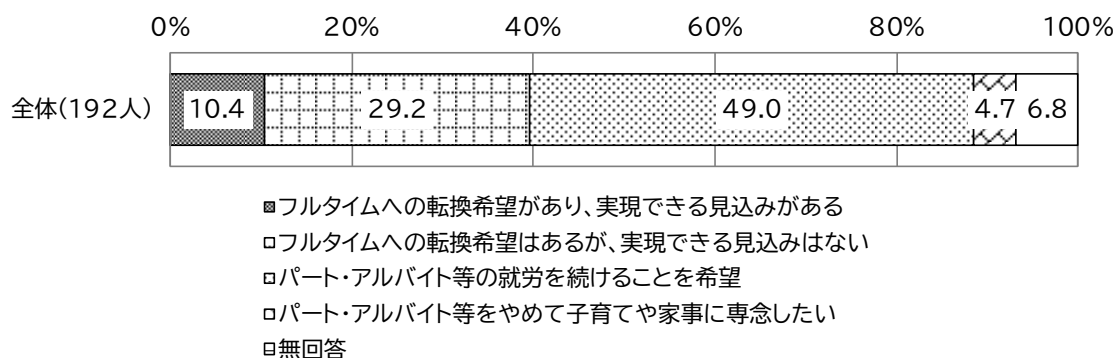
【問15(1)-1 母親 1日当たりの就労時間】



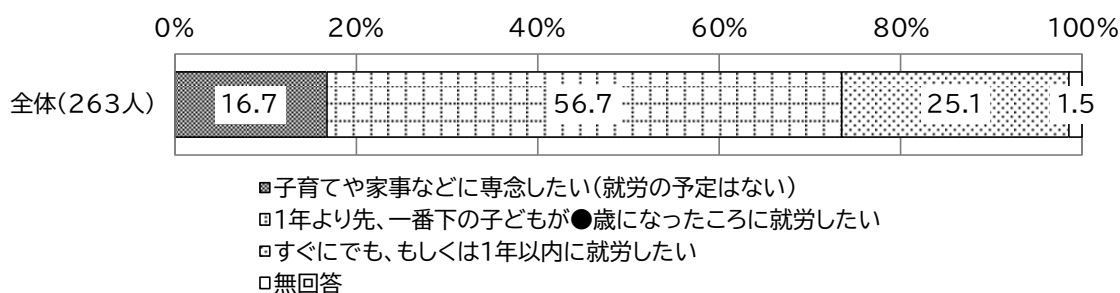
パートタイムからフルタイムへの意向は「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が49.0%と最も高く、次いで29.2%が「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と回答しています。

就労していない母親の今後の就労希望は81.8%が今後の就労を希望しており、そのうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が25.1%で、希望する就労形態は「フルタイム」が6.1%、「パートタイム・アルバイト等」が84.8%となっています。

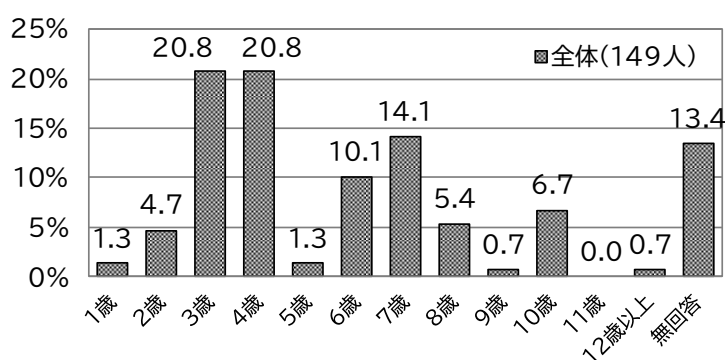
【問16-1 (1) 母親 フルタイムへの転換希望】



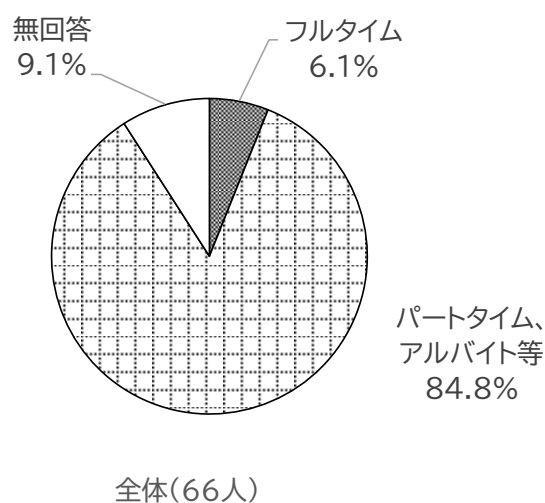
【問17 (1) 母親 就労希望】



【問17(1)就労可能な一番下の子の年齢】



【問17(1) 母親 希望する就労形態】

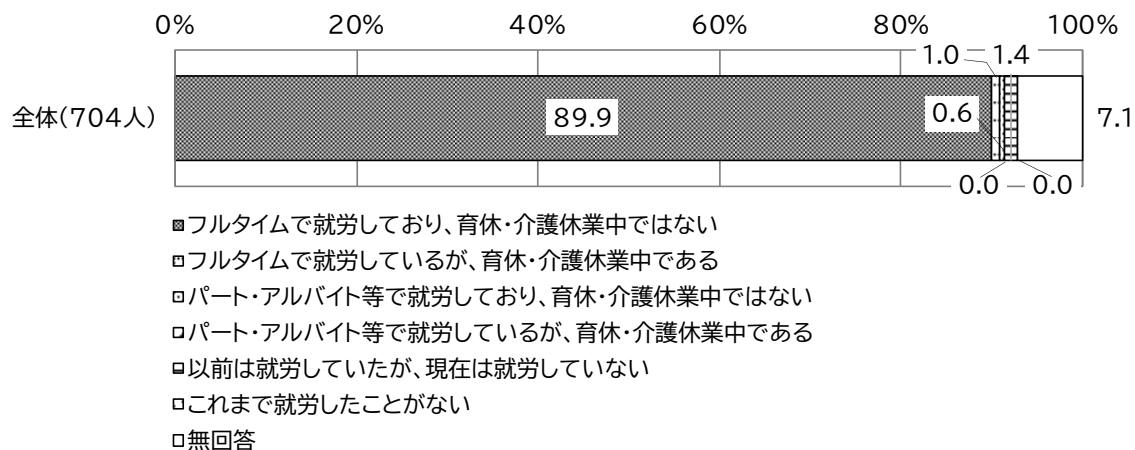


(2)父親の就労状況

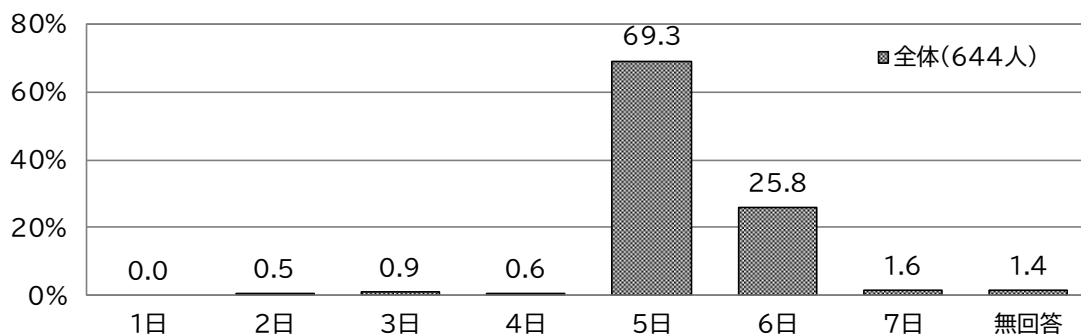
父親の 89.9%が「フルタイムで就労しており、休業中ではない」と回答しています。

週当たりの就労日数は「5日」が 69.3%、「6日」が 25.8%、1日当たりの就労時間は「8時間」が 35.2%で最も高く、次いで「10 時間」が 19.6%となっています。

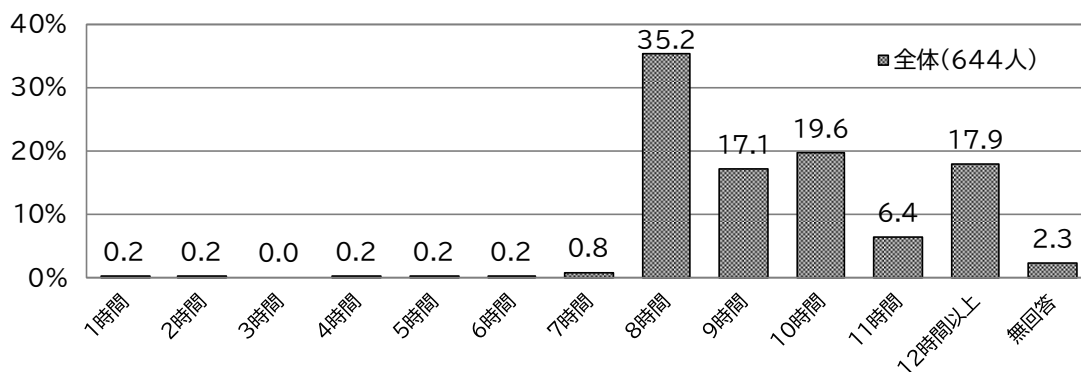
【問15(2) 父親の就労状況】



【問15(2)-1 父親 週当たりの就労日数】



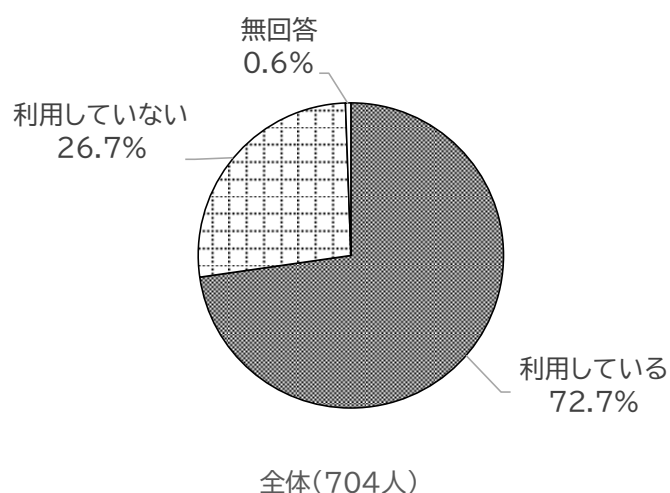
【問15(2)-1 父親 1日当たりの就労時間】



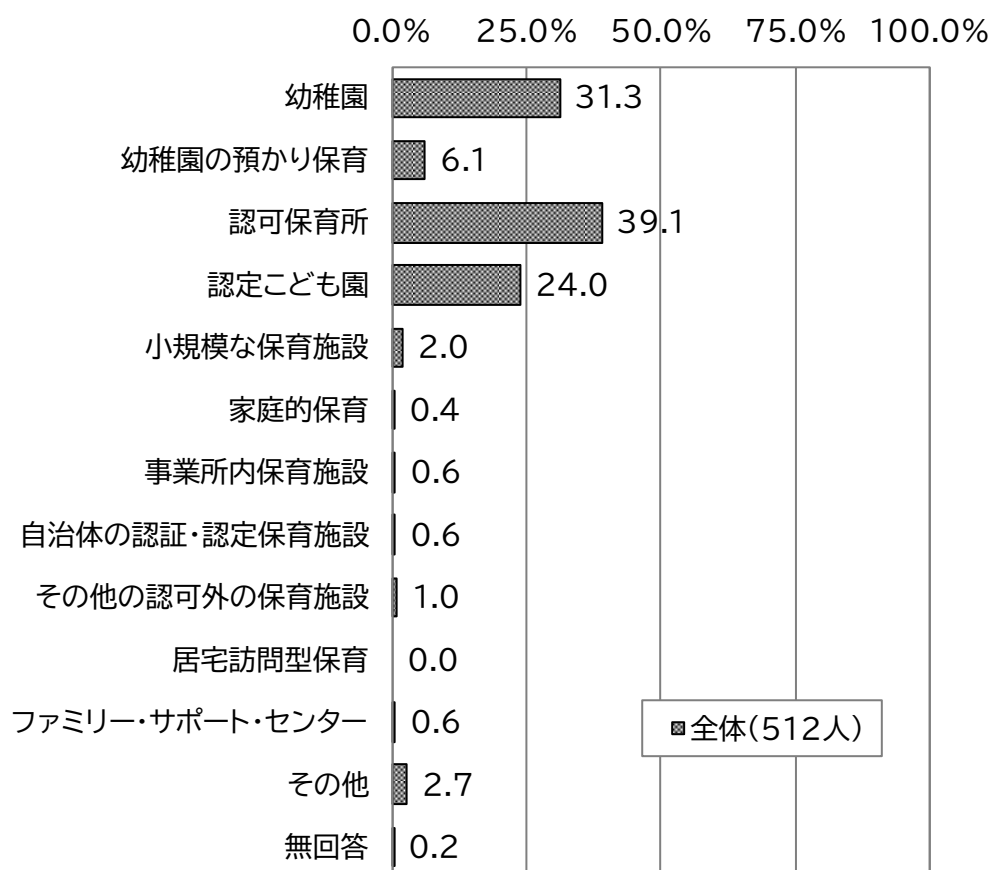
3 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

平日の定期的な教育・保育事業を「利用している」は 72.7%で、そのうち、「認可保育所」が 39.1%、「幼稚園」が 31.3%となっています。

【問18 定期的な教育・保育の事業の利用】



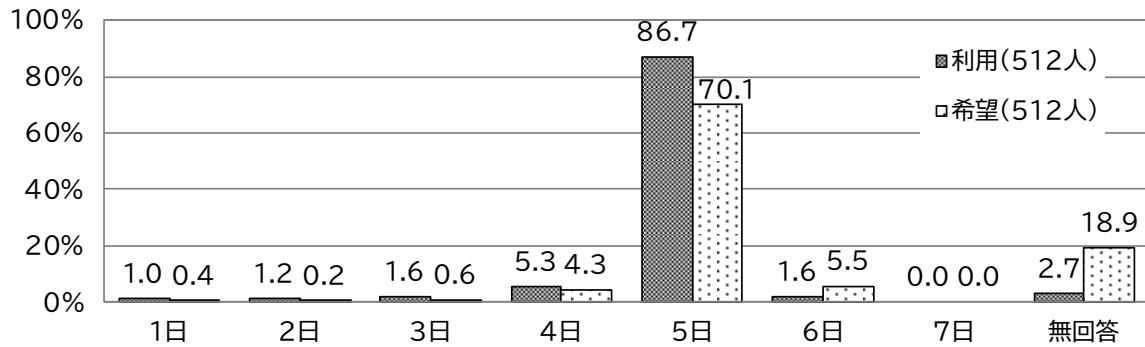
【問18-1 平日に利用している定期的な教育・保育事業】



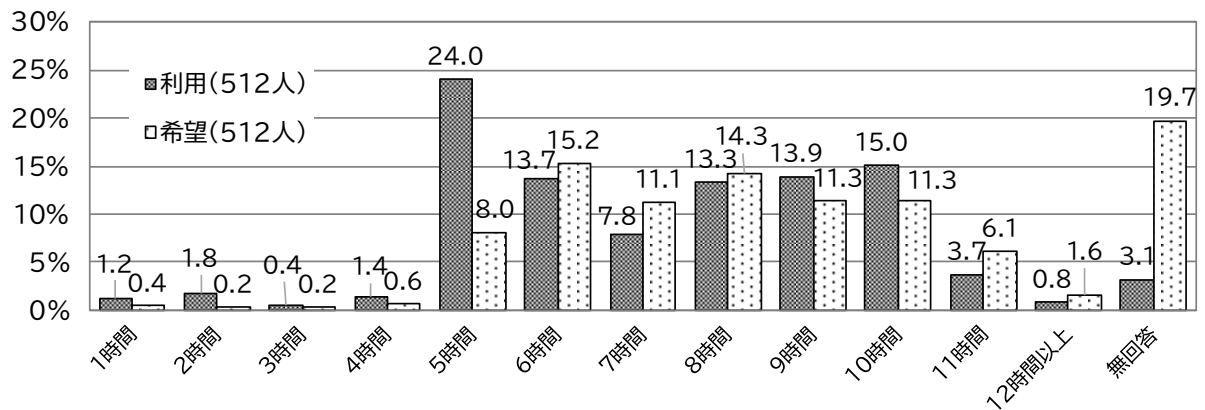
現在の利用日数と希望日数も、週5日が最も高くなっています。

利用時間は5時間が最も高くなっていますが、希望時間では5～11時間で6～15%と回答がわかれています。

【問18-2 定期的に利用している幼稚園・保育施設等の利用日数と希望日数(1週当たり)】



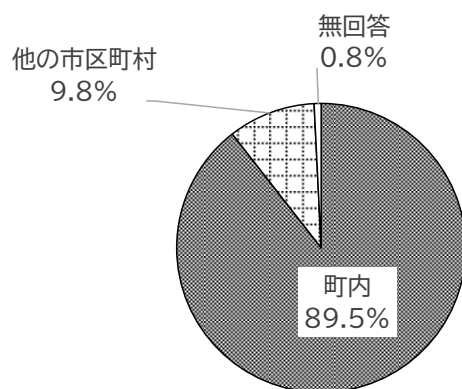
【問18-2 定期的に利用している幼稚園・保育施設等の利用時間と希望時間(1日当たり)】



平日に利用している教育・保育事業の場所は「町内」が 89.5%、利用希望も「町内」が 91.9% となっています。また、利用したい事業は「幼稚園」が 48.6%と高く、次いで「認可保育所」が 43.8%、「認定こども園」が 34.4%、「幼稚園の預かり保育」が 29.4%となっています。

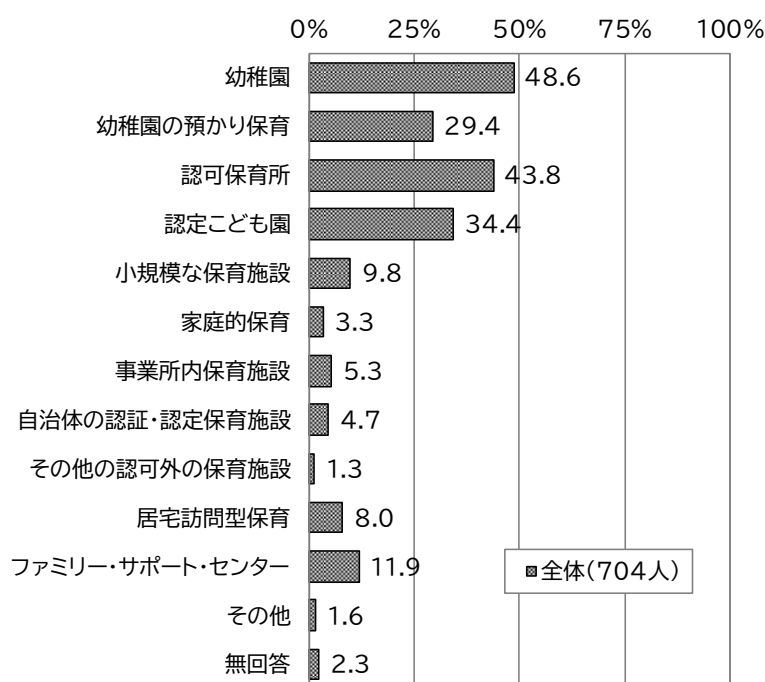
幼稚園とそれ以外の教育・保育事業を利用したいと考える人のうち、特に幼稚園の利用を強く希望する人は 67.0%となっています。

【問18-3 平日に利用している教育・保育事業の実施場所】

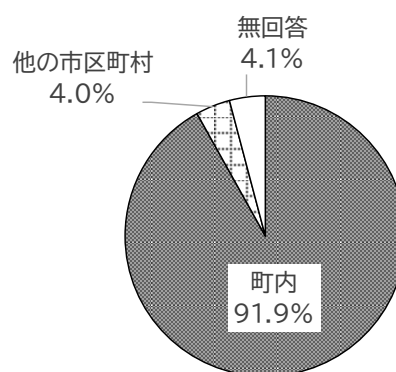


全体(512人)

【問19 平日に定期的に利用したい事業】

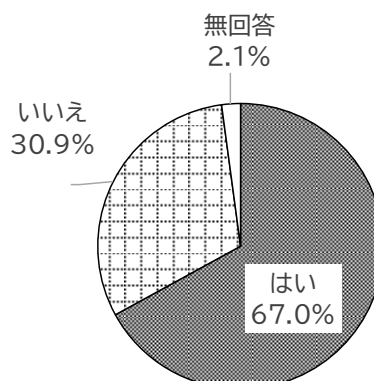


【問19-1 教育・保育事業を利用したい場所】



全体(704人)

【問19-2 幼稚園利用の強い希望】



全体(188人)

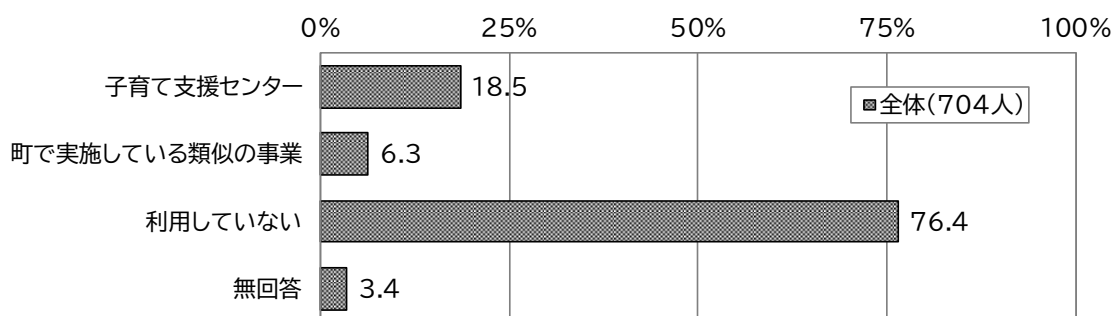
4 地域子育て支援事業の現状と今後の利用希望

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

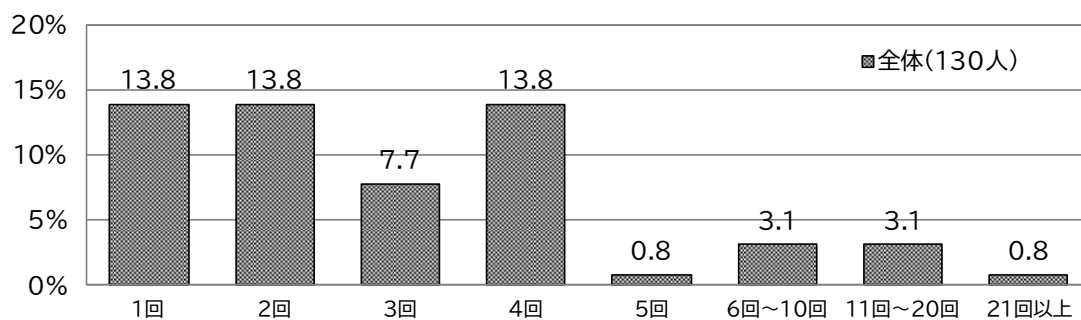
地域子育て支援拠点事業は「利用していない」が 76.4%と最も高く、「子育て支援センター」の利用は 18.5%となっています。

子育て支援センターの1か月当たりの利用回数は、「1回」「2回」「4回」がともに 13.8%で高くなっています。

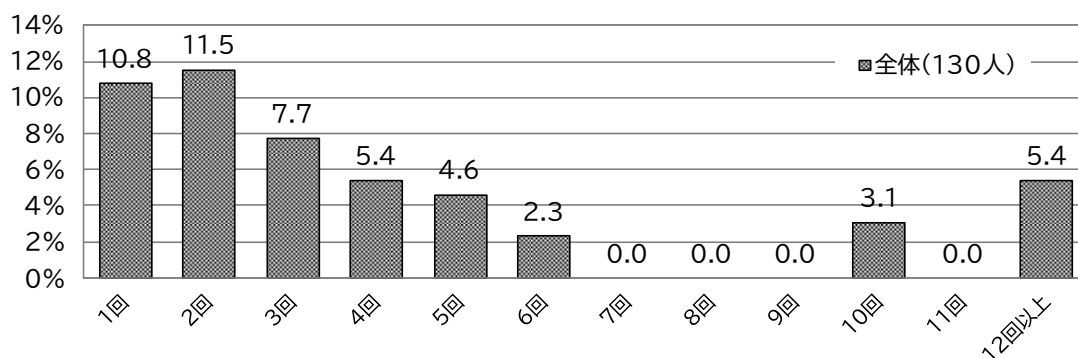
【問20 利用している地域子育て支援拠点事業】



【問20 子育て支援センターの1か月当たりの利用回数】

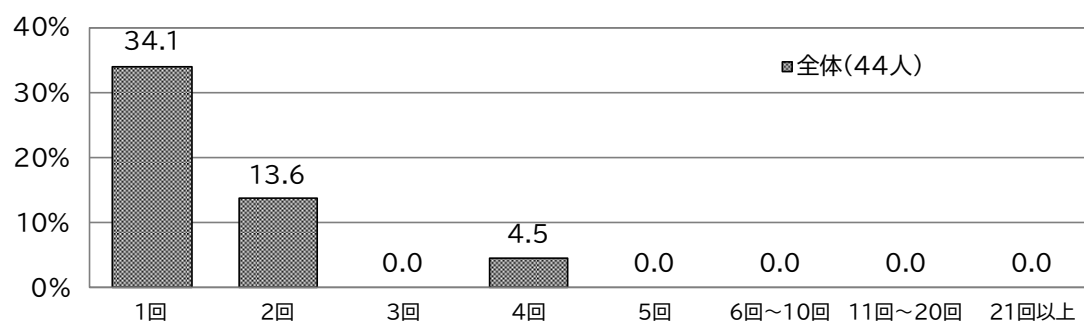


【問20 子育て支援センターの1年当たりの利用回数】

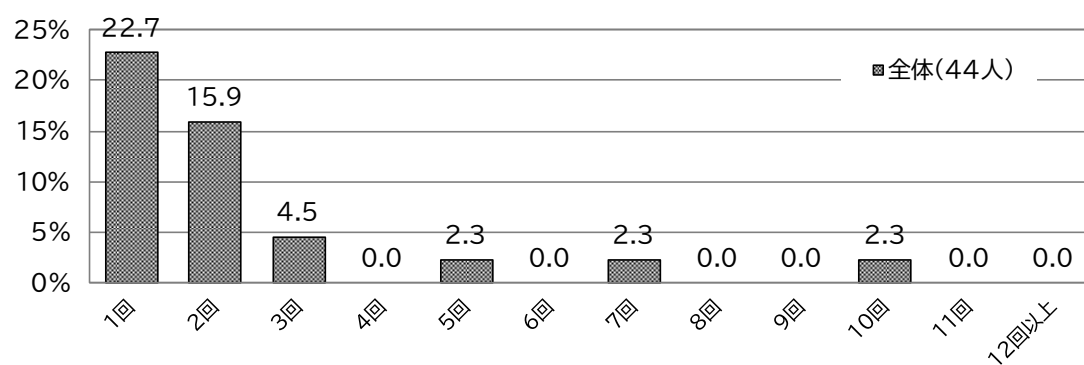


類似の事業の1か月当たりの利用回数は、「1回」が 34.1%で最も高くなっています。

【問20 その他、類似の事業の1か月当たりの利用回数】

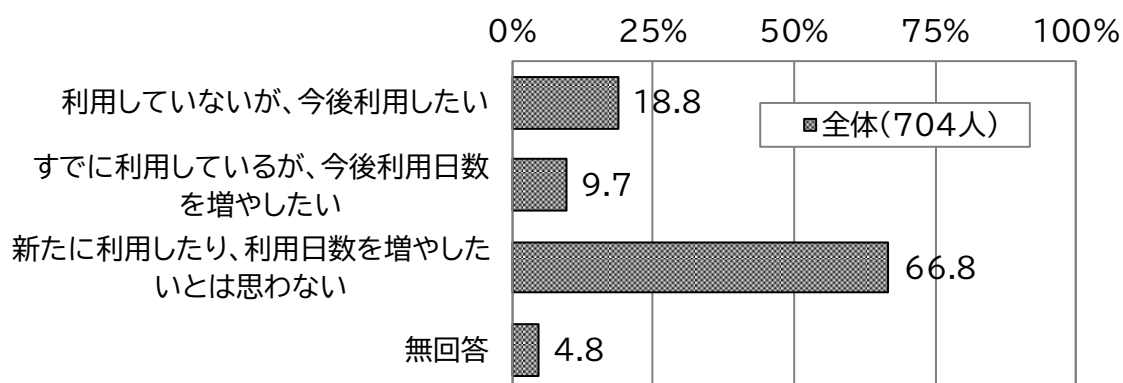


【問20 その他、類似の事業の1年当たりの利用回数】



今後の利用については「利用していないが利用したい」が 18.8%となっています。

【問21 地域子育て支援拠点事業の利用意向】

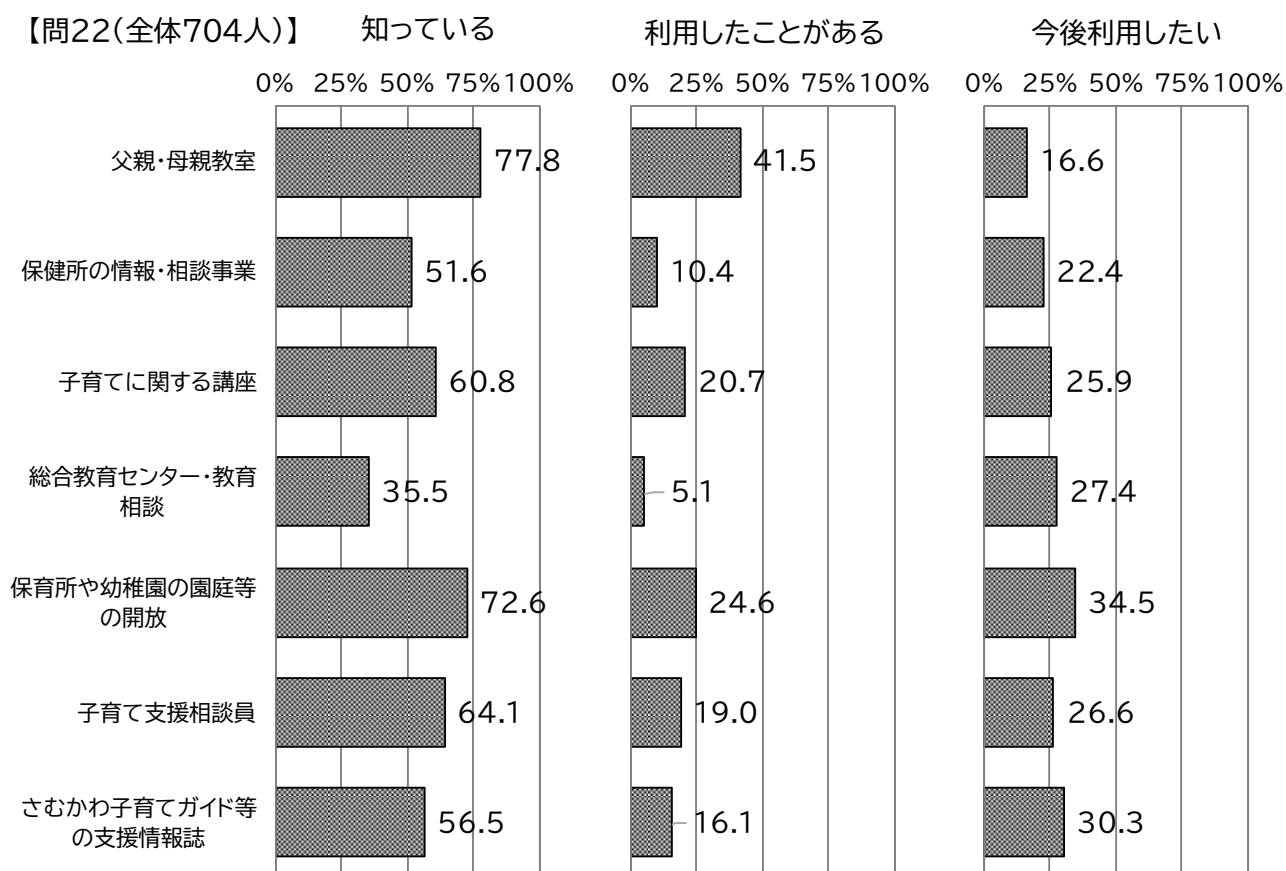


(2)地域子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について

地域子育て支援事業の認知度は「父親・母親教室」77.8%、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」が72.6%となっています。

利用したことがある事業は「父親・母親教室」が41.5%、「保育所や幼稚園の園庭等の開放」が24.6%で上記の2事業が高くなっています。

今後の利用意向について、利用実績から利用意向が大きく増加しているのは「総合教育センター・教育相談」が5.1%から27.4%、「さむかわ子育てガイド等の支援情報誌」が16.1%から30.3%となっています。



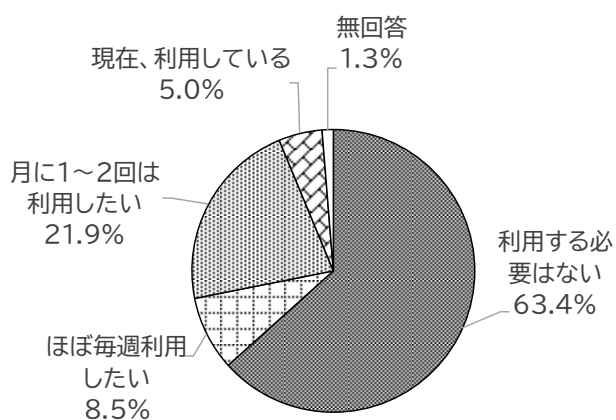
5 土曜日・休日の教育・保育事業の利用希望

土曜日の利用希望は「利用する必要はない」が 63.4%、「月に1～2回は利用したい」が 21.9%となっています。

日曜日・祝日では「利用する必要はない」が 78.7%、「月に1～2回は利用したい」が 16.5%となっています。

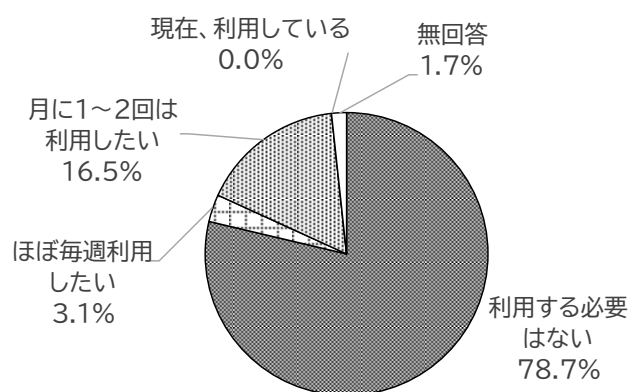
夏休み・冬休みなどの長期休暇中の利用希望は「休みの期間中、週に数日利用したい」が 49.7%と最も高く、次いで「利用する必要はない」が 38.9%となっています。

【問23(1) 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向】



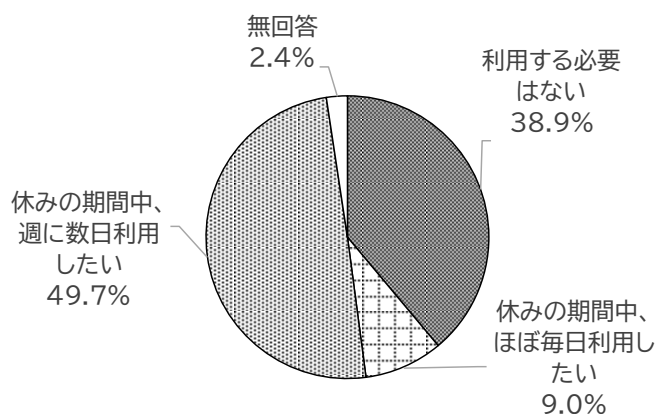
全体(704人)

【問23(2) 日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向】



全体(704人)

【問24 長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望】

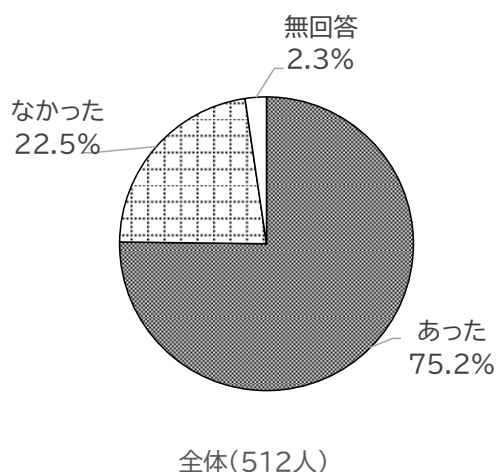


全体(167人)

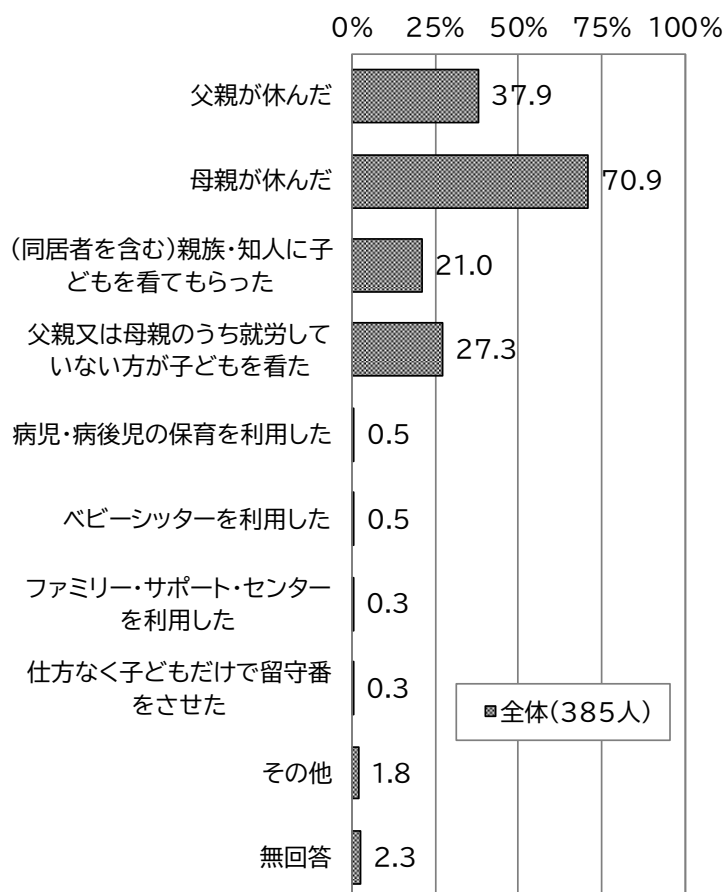
6 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

病気やケガで、通常の教育・保育事業が利用できなかった経験があったのは75.2%で、その対処法は「母親が休んだ」が70.9%と最も高く、次いで「父親が休んだ」が37.9%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもを見た」が27.3%となっています。

【問25 子どもの病気やケガで通常の事業が利用できなかったこと】



【問25-1 病気やけがで教育・保育の事業が利用できなかった場合に行った対処方法】

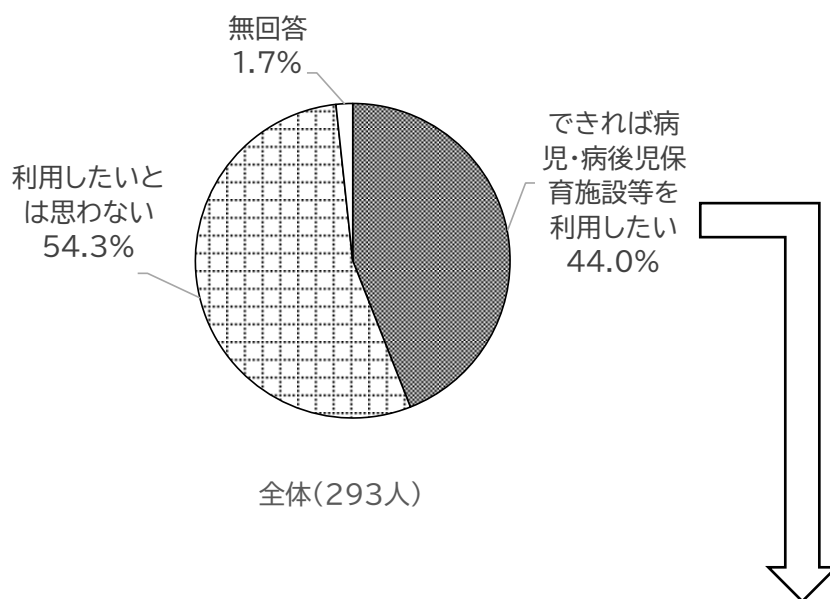


父親・母親が休んだ人で「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が 44.0%、「利用したいとは思わない」が 54.3%と回答しています。

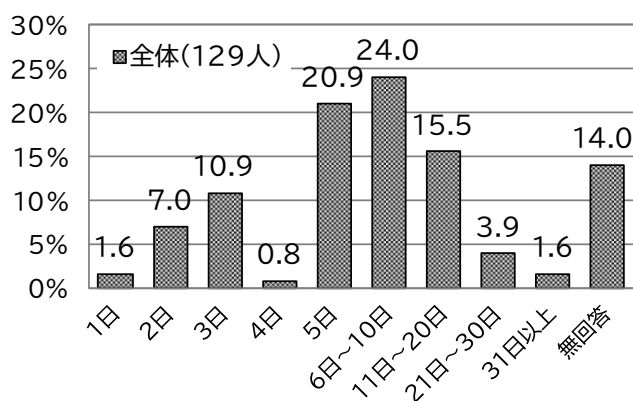
利用したい人が思う望ましい事業形態は「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が 90.7%、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が 73.6%となっています。

望ましい希望日数は「6～10日」が 24.0%、「5日」が 20.9%となっています。

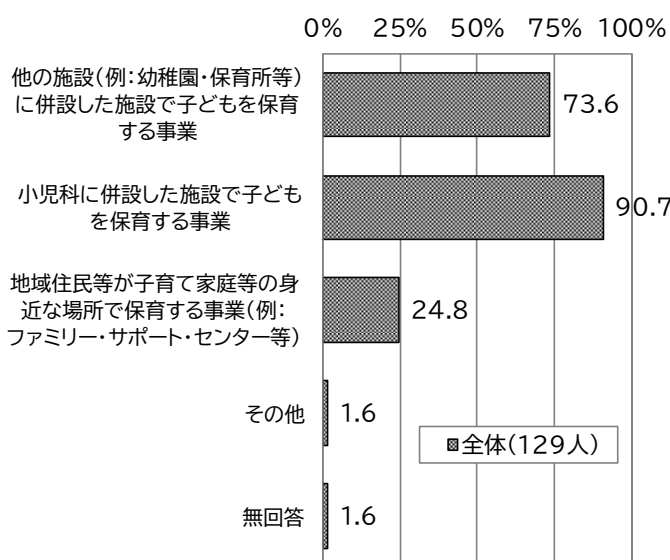
【問25-2 病児・病後児のための保育施設等の利用意向】



【問25-2 利用したい日数】

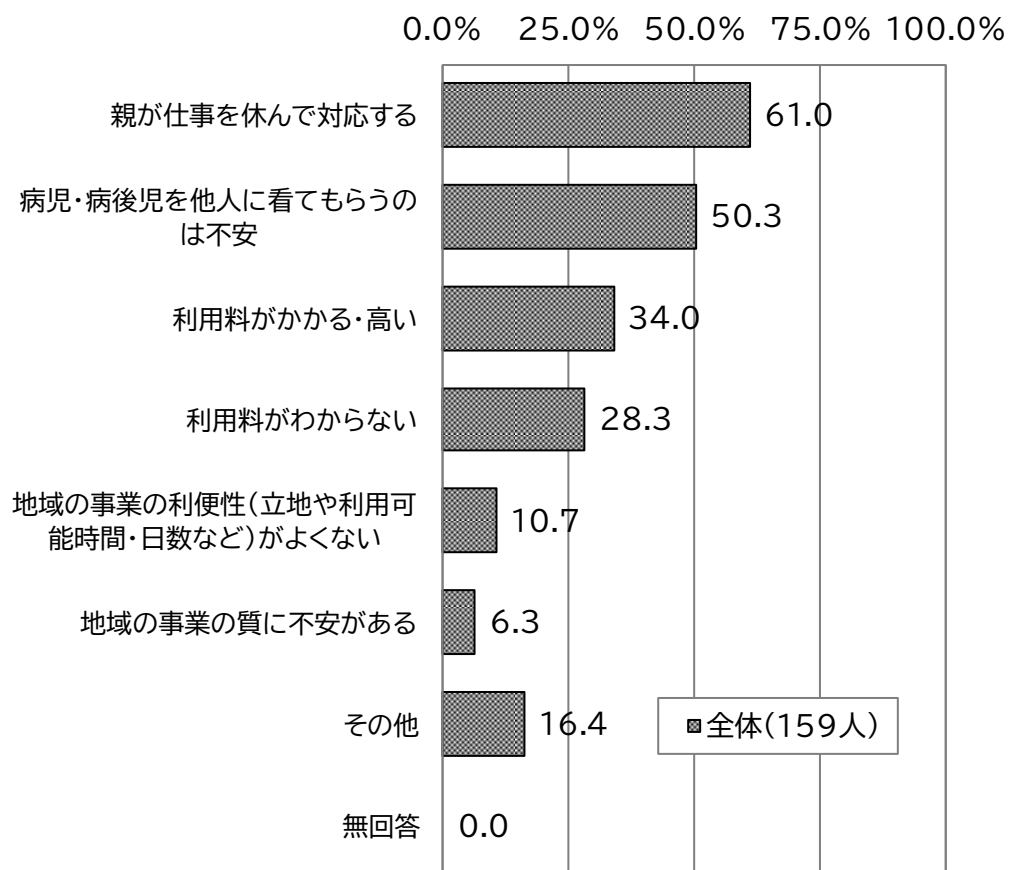


【問25-3 病気やケガで子どもを預ける場合の望ましい事業形態】



病児・病後児のための保育施設利用意向のない人の理由は、「親が仕事を休んで対応する」が61.0%で最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が50.3%、「利用料がかかる・高い」が34.0%となっています。

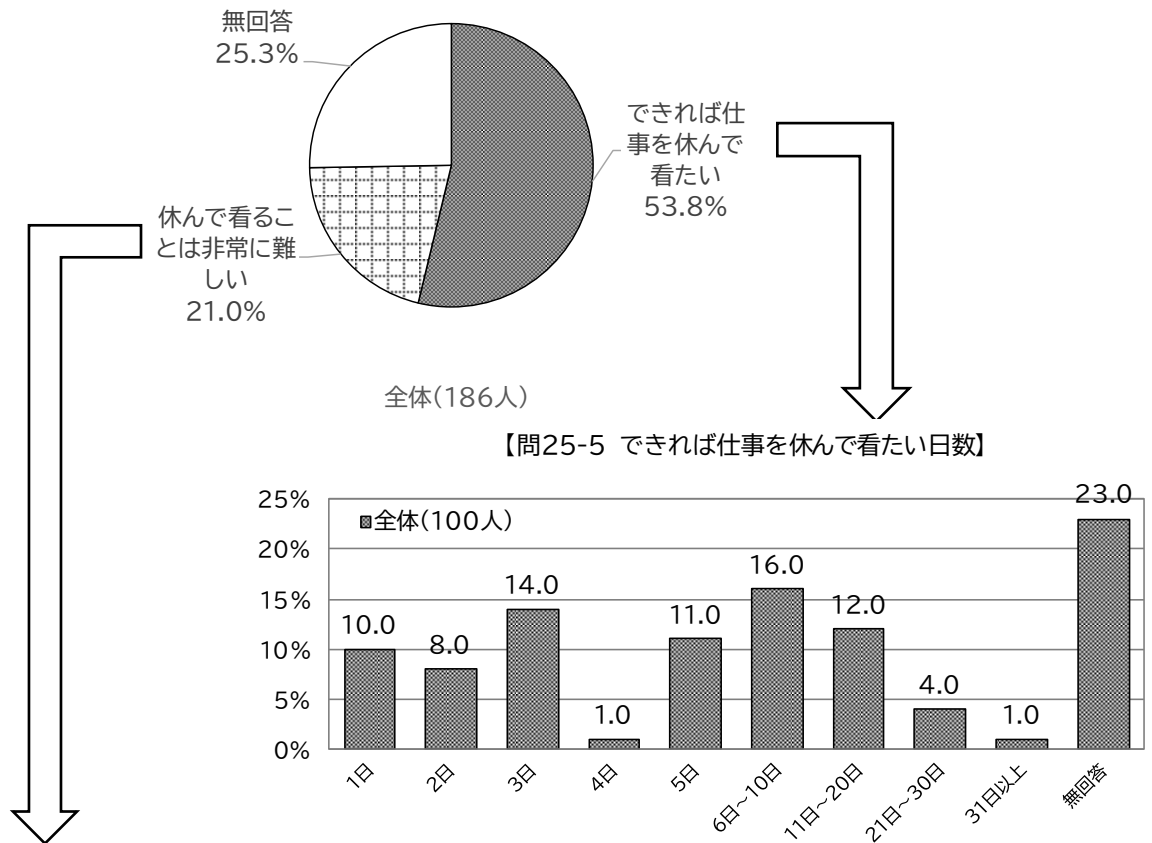
【問25-4 病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由】



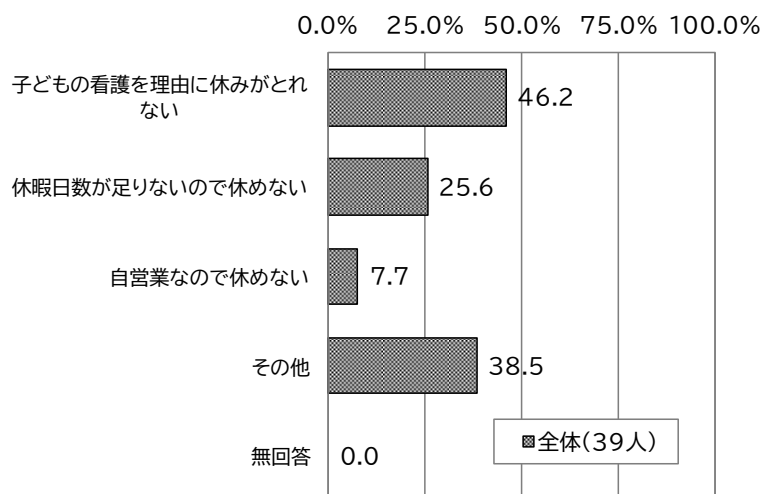
父母が休む以外の対処方法を選んだ人で、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」
かについては、「休んで看することは非常に難しい」が 21.0%となっています。

その理由としては「子どもの看護を理由に休みがとれない」が 46.2%で最も高く、次いで「そ
の他」が 38.5%となっています。

【問25-5 できれば父母のいずれかが仕事を休むことについて】



【問25-6 休んで看することが難しい理由】



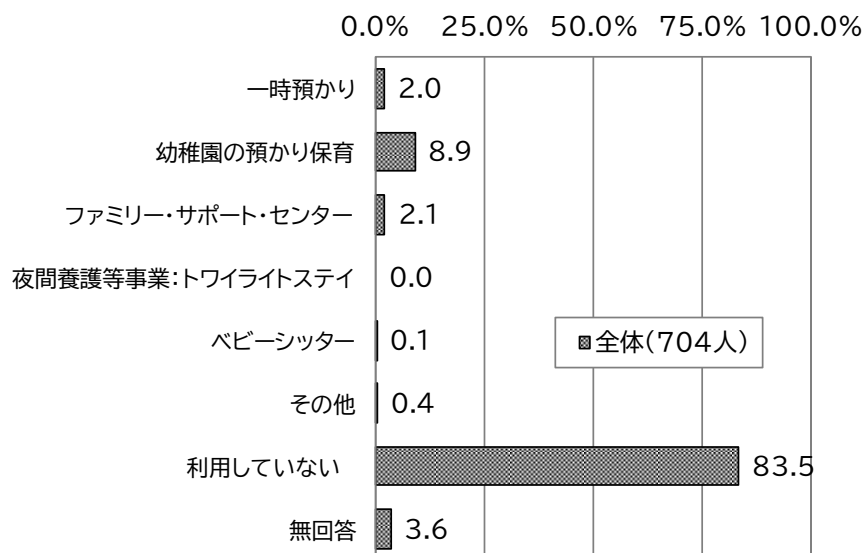
「その他」の主な理由

- ・職場の人手不足
- ・仕事上迷惑をかけられない
- ・収入減 等

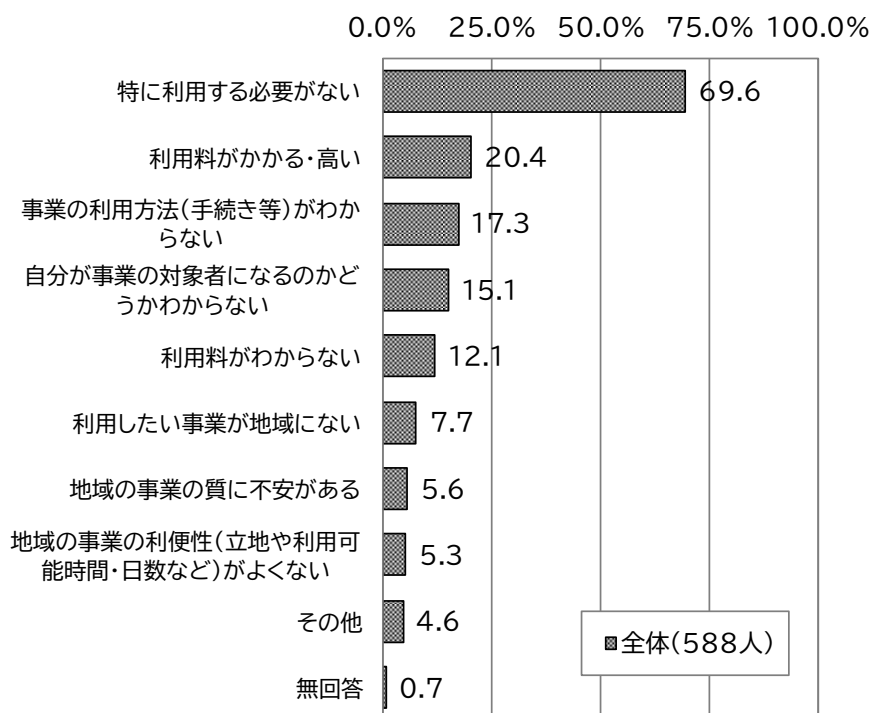
7 不定期の一時保育の利用状況

不定期の教育・保育事業の利用は「利用していない」が83.5%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が8.9%となっています。利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が69.6%、「利用料がかかる・高い」が20.4%となっています。

【問26 不定期に利用している教育・保育事業】

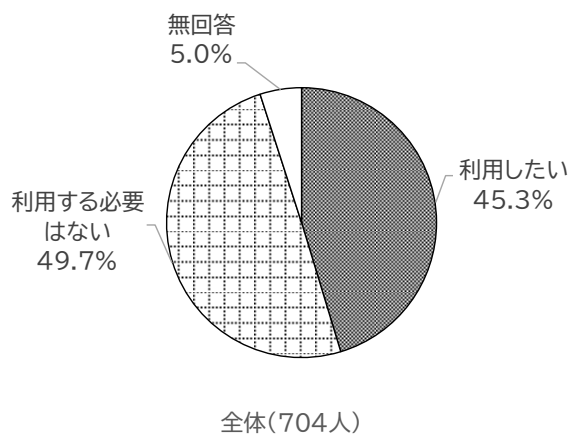


【問26-1 不定期の教育・保育事業を利用していない理由】

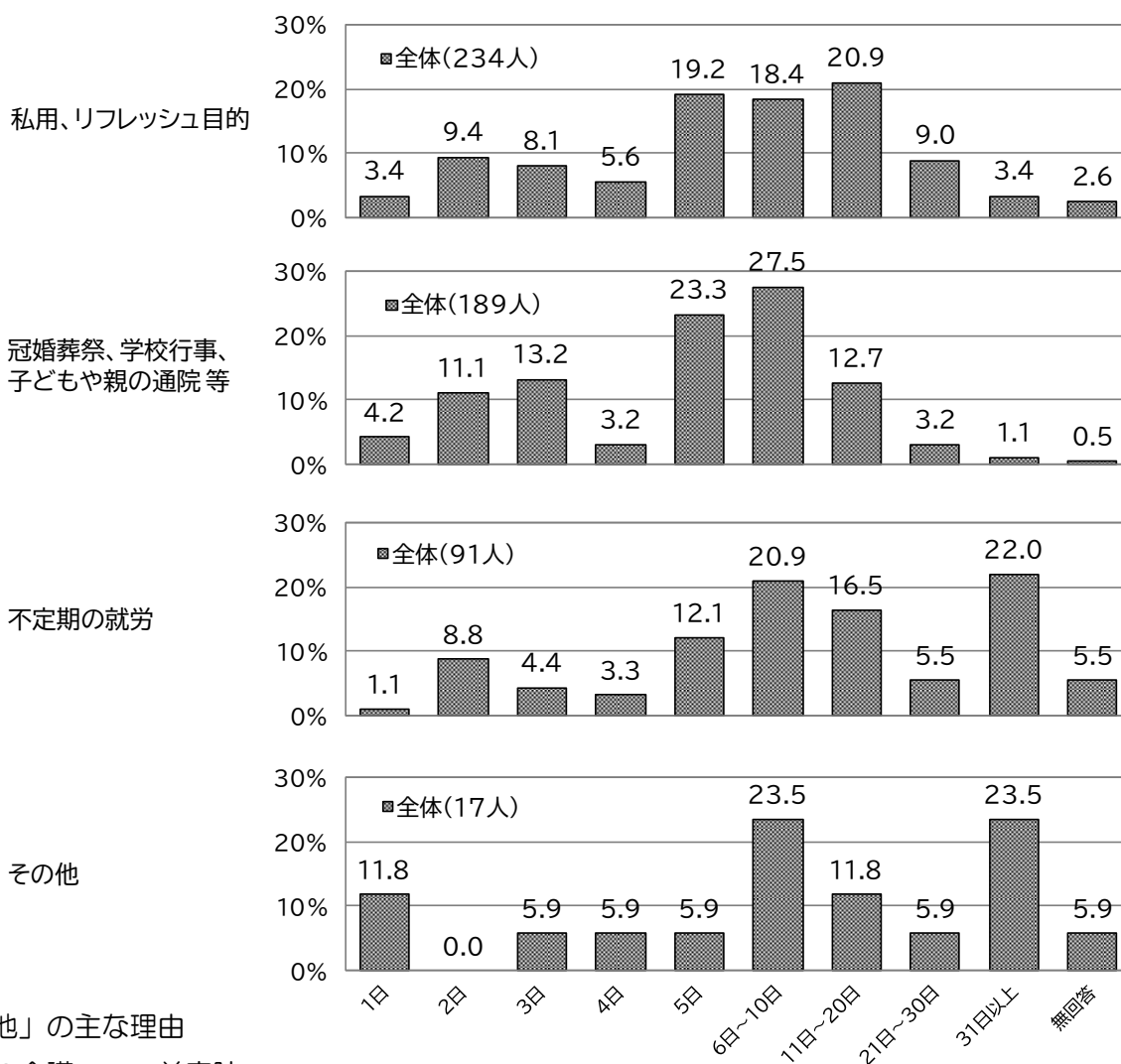
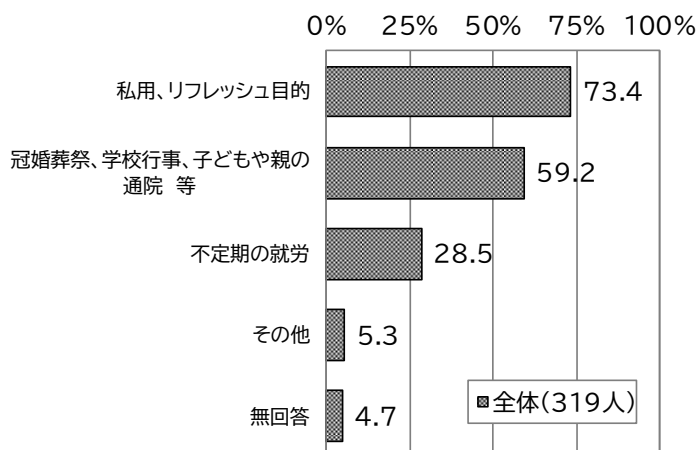


私用、親の通院、不特定の就労等の目的で利用する必要があるかについては「利用したい」が45.3%で、その目的は「私用、リフレッシュ目的」が73.4%、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が59.2%となっています。

【問27 不特定の教育・保育事業利用希望】



【問27_1 利用したい不特定の教育・保育事業】

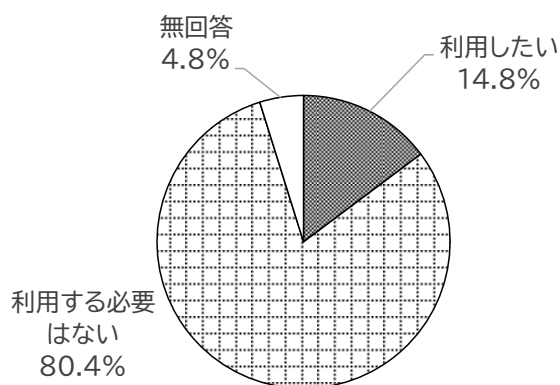


「その他」の主な理由

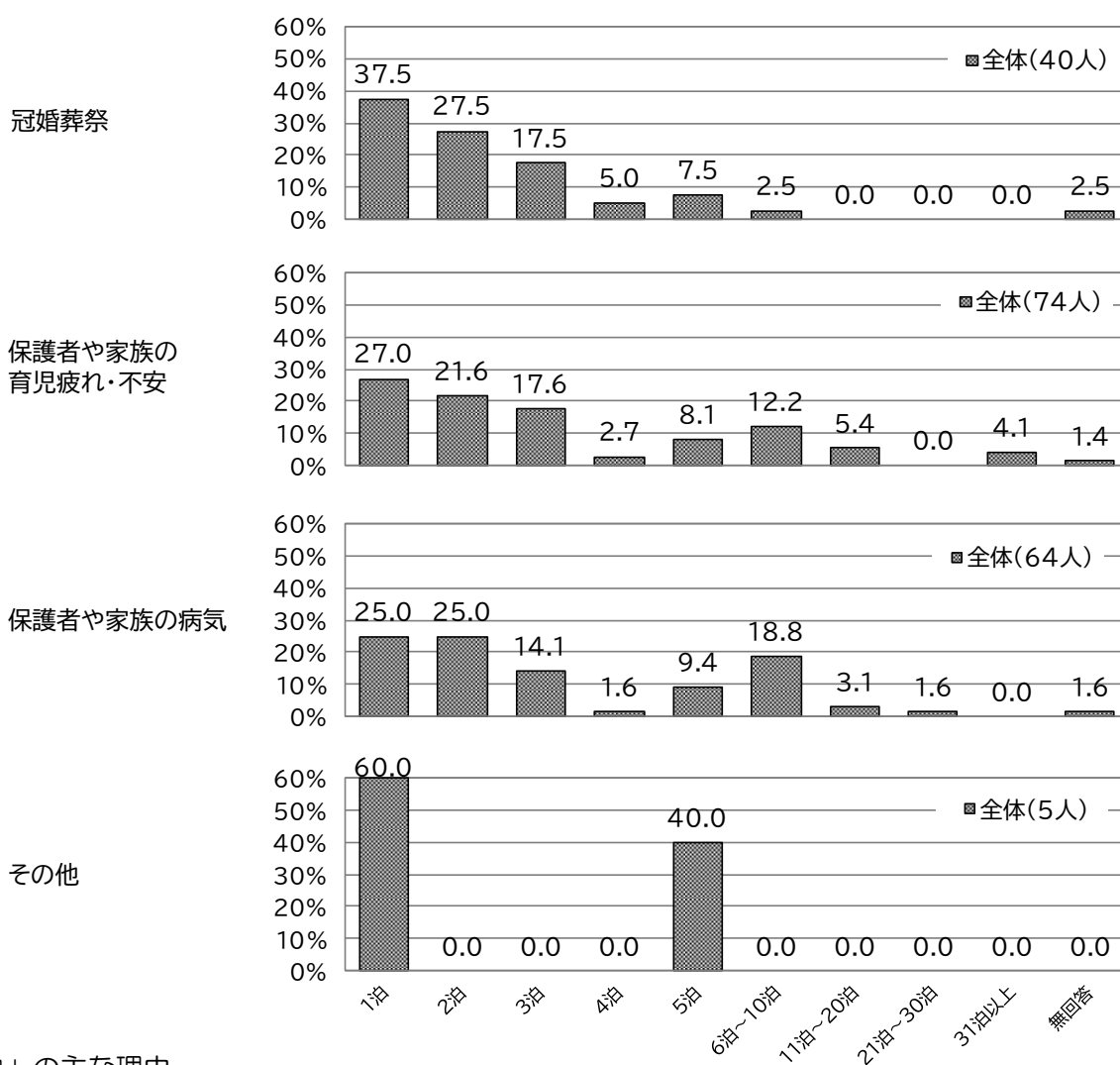
- ・家族の介護
- ・美容院
- ・自分の通院
- 等

保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族(兄弟姉妹含む)の育児疲れや育児不安、病気など)による短期入所生活援助事業(ショートステイ)の利用希望については、「利用したい」が14.8%となっています。

【問28 短期入所生活援助事業の利用希望】



全体(704人)



「その他」の主な理由

・出産時の入院中 ・夫婦旅行 等

8 放課後の過ごし方の希望と学童保育所の利用希望

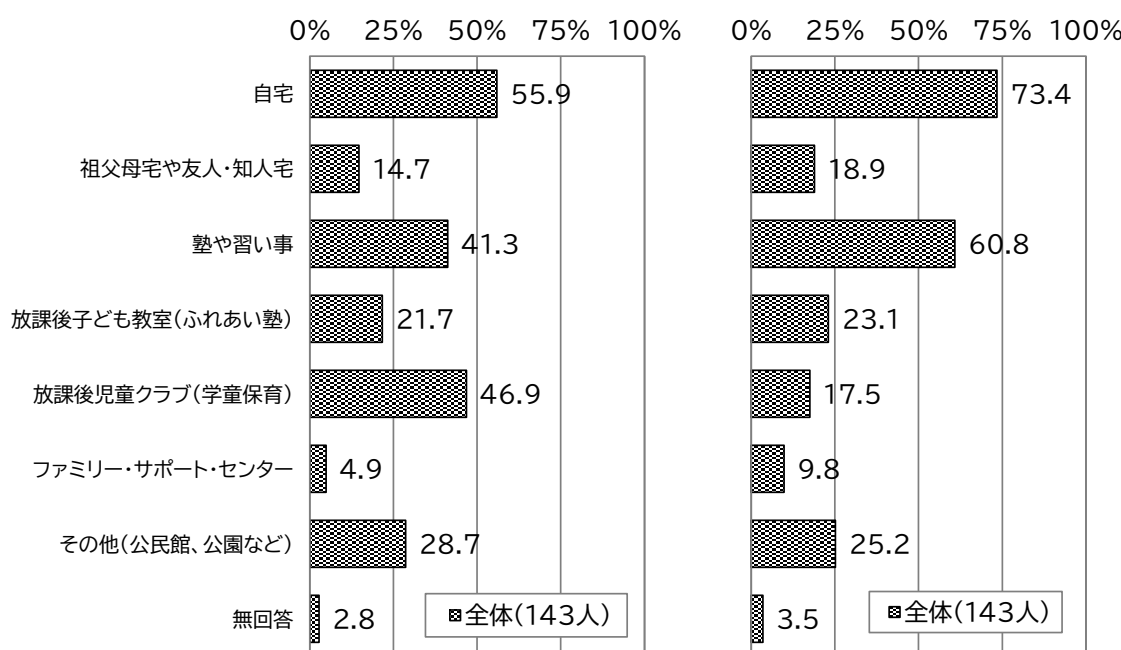
(1) 平日の放課後の過ごし方

平日の放課後の過ごし方について、就学前児童が小学校低学年になった場合の希望は、「自宅」が 55.9%、「放課後児童クラブ(学童保育)」が 46.9%、「塾や習いごと」が 41.3%となっています。高学年になった場合の希望は、「自宅」が 73.4%、「塾や習いごと」が 60.8%、「その他(公民館、公園など)」が 25.2%となっています。

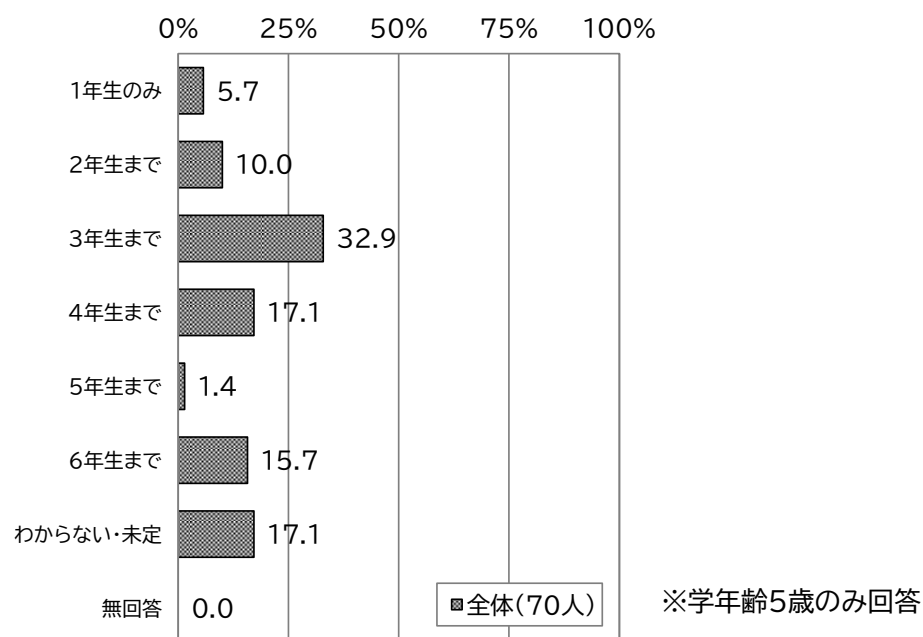
何年生まで放課後児童クラブ(学童保育)を利用したいかについては、「3年生まで」が 32.9%で最も高く、次いで「6年生まで」が 15.7%となっています。

【問29 小学校低学年の放課後の希望】

【問30 小学校高学年の放課後の希望】



【問31 放課後児童クラブを利用する学年】

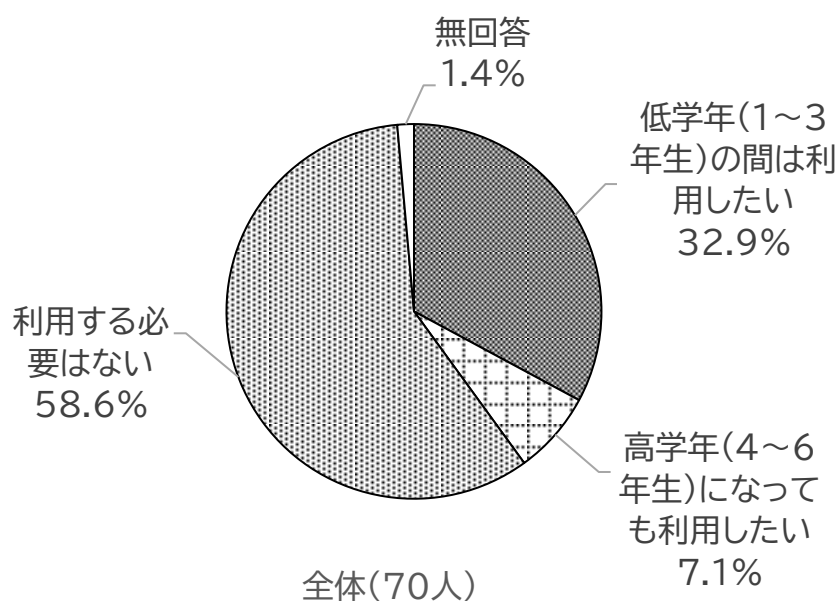


(2)土曜日・休日の学童保育所利用希望

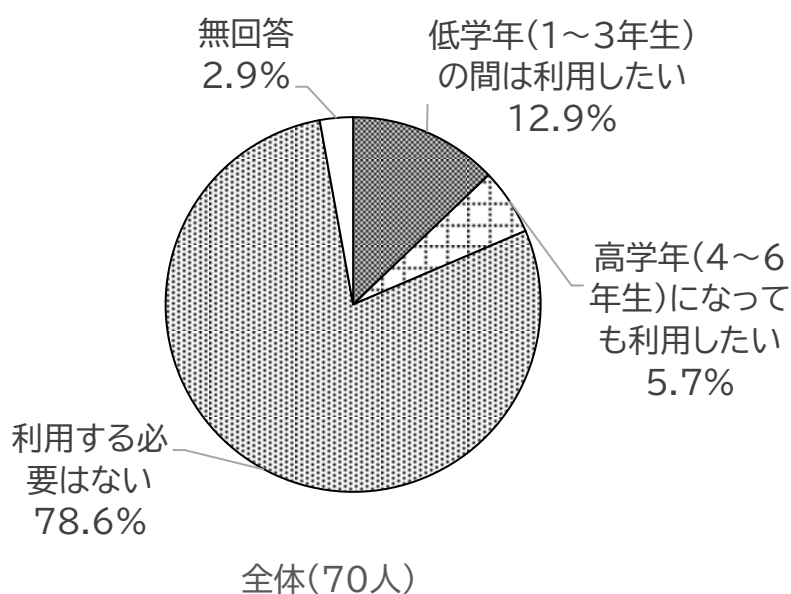
土曜日の放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望について、「低学年の間は利用したい」が32.9%、「高学年になっても利用したい」が7.1%、「利用する必要はない」が58.6%となっています。

日曜日・祝日の放課後児童クラブ(学童保育)の利用希望について、「低学年の間は利用したい」が12.9%、「高学年になっても利用したい」が5.7%、「利用する必要はない」が78.6%となっています。

【問32(1) 土曜日の放課後児童クラブの利用希望】



【問32(2) 日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望】



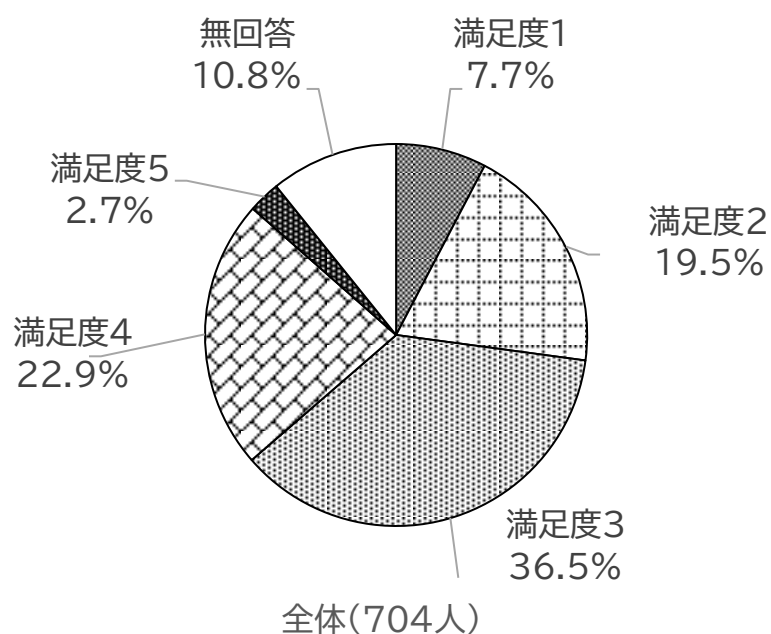
9 町の子育て環境や支援の満足度

町の子育て環境や支援の満足度について、「1」(満足度が低い)から「5」(満足度が高い)の5段階で評価してもらったところ、「満足度3」が 36.5%で最も高く、次いで「満足度4」が 22.9%となっています。

最も満足度の高い「5」は 2.7%、最も満足度の低い「1」は 7.7%となっています。

平均値は 2.93 となっています。

【問35 町の子育て環境や支援の満足度】



寒川町

子ども・子育て支援事業(児童クラブ)に関するニーズ調査 報告(速報)

I 調査の概要

1 調査票の種類と調査対象者等

「子ども・子育て支援事業（児童クラブ）に関するニーズ調査」（就学児童用）	
調査対象者	就学児童の保護者（町内5小学校の各学年1学級を抽出）
調査件数	961件
調査内容	就労状況、放課後児童クラブ（学童保育）の利用等

2 調査の実施方法と配付・回収状況

（1）調査時期と調査方法

調査時期：令和5年11月～12月

調査方法：各小学校経由で調査票を配付・回収

（2）調査票の配付・回収状況

調査票による配付・回収状況は以下のとおりである。

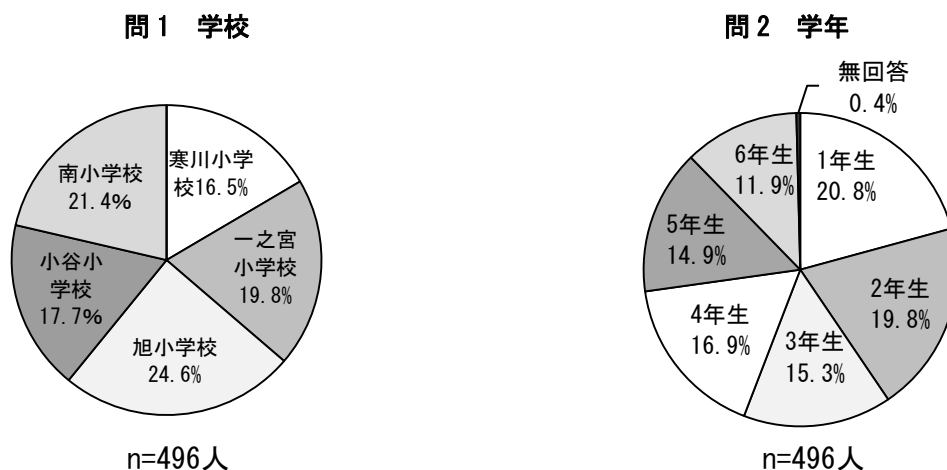
調査対象者区分	就学児童の保護者		
地 区	配付数	回収数	回収率
町全域	961件	496件	51.6%

3 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。

4 調査対象者の属性

回答された就学児童の属性は以下のとおりである。



Ⅱ 調査結果

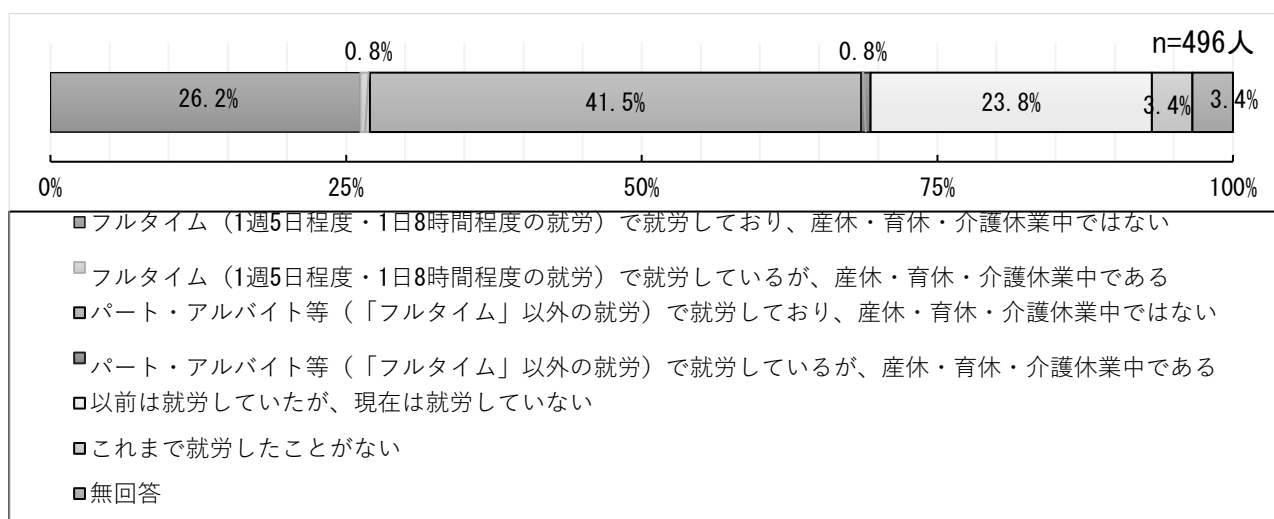
1 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

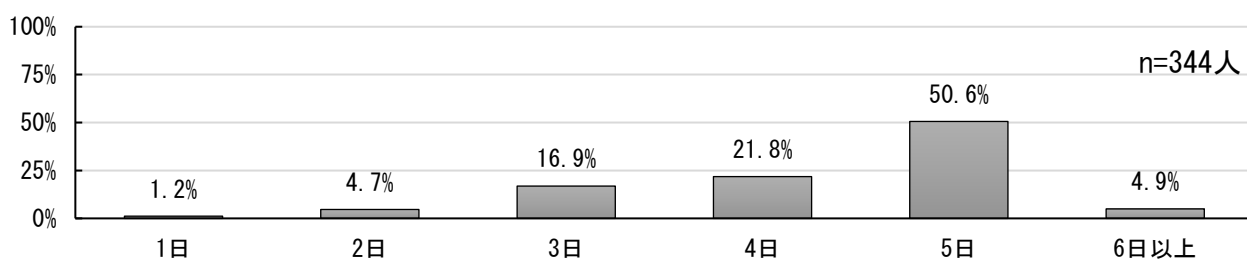
「パート・アルバイト等で就労しており、休業中ではない」が41.5%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が26.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が23.8%となっている。

就労日数は「5日」/週が50.6%、就労時間は「4～5時間」/日が37.2%で高くなっている。

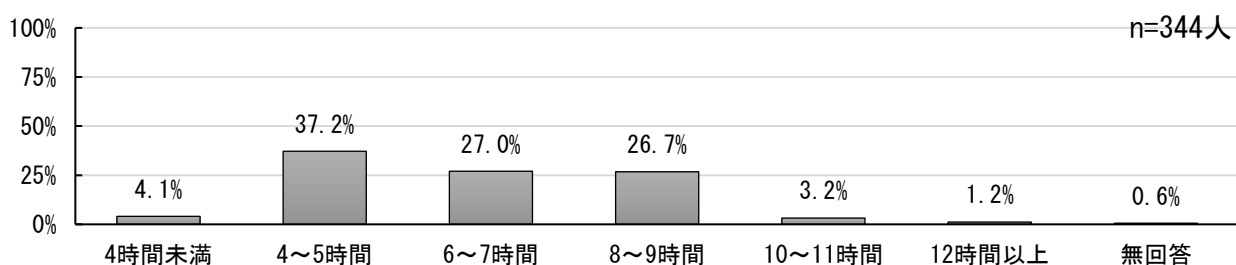
問3(1) 母親の就労状況



問3(1)-1 母親の就労日数（1週当たり）



問3(1)-1 母親の就労時間（1日当たり）

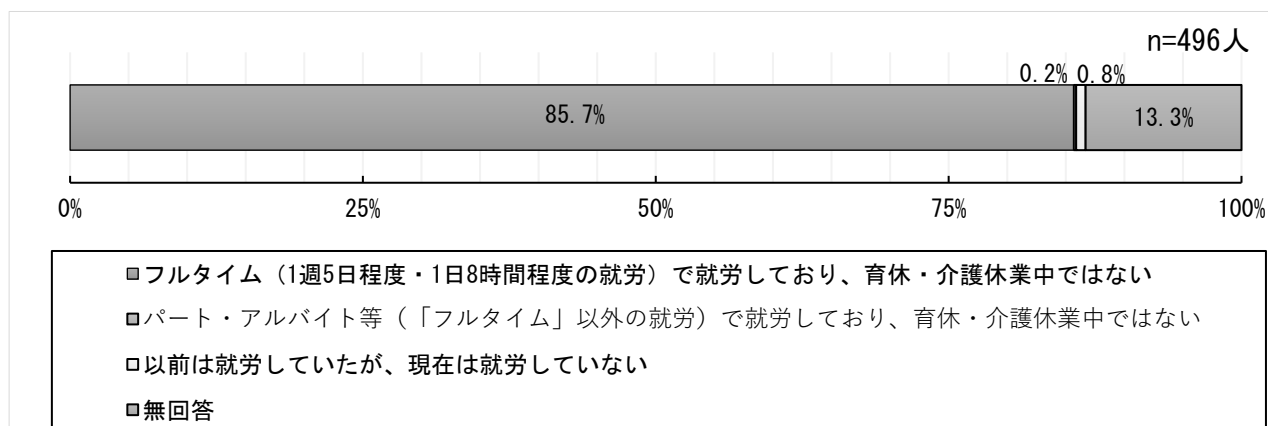


（２）父親の就労状況

父親の85.7%が、「フルタイムで就労しており、休業中ではない」と回答している。

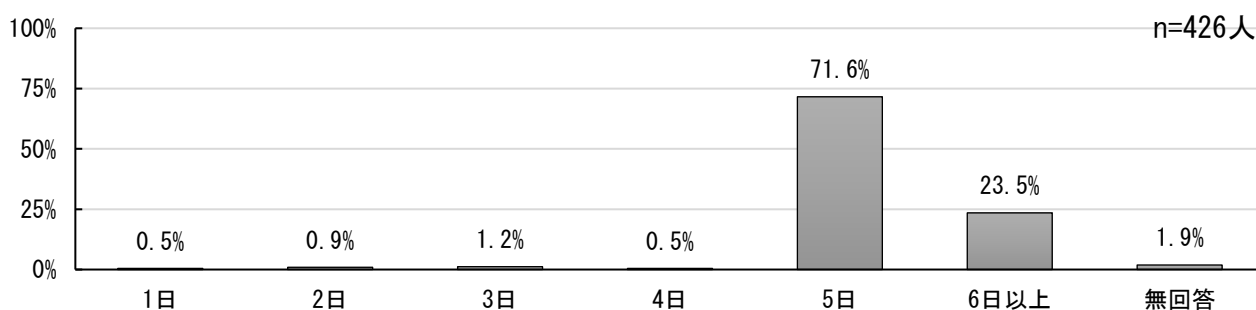
就労日数は「5日」/週が71.6%、「6日以上」/週が23.5%、就労時間は「8～9時間」/日が53.1%で高くなっている。

問 3(2) 父親の就労状況

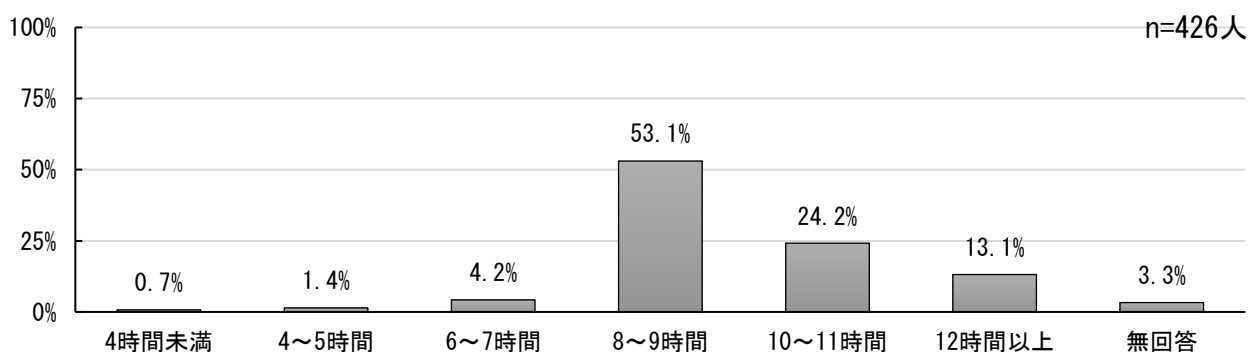


※「フルタで就労しているが、休業中である」「パート・アルバイト等で就労しているが、休業中である」「これまで就労したことがない」は該当なし。

問 3(2)-1 父親の就労日数（1 週当たり）



問 3(2)-1 父親の就労時間（1 日当たり）

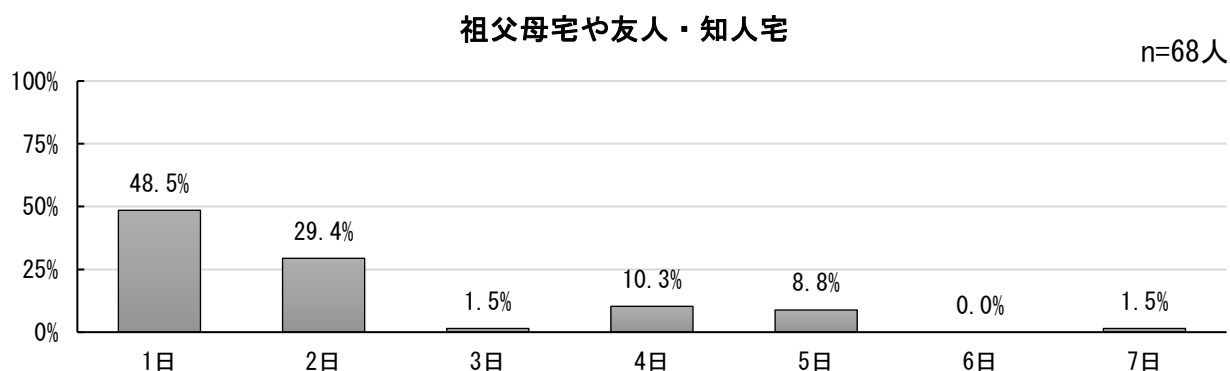
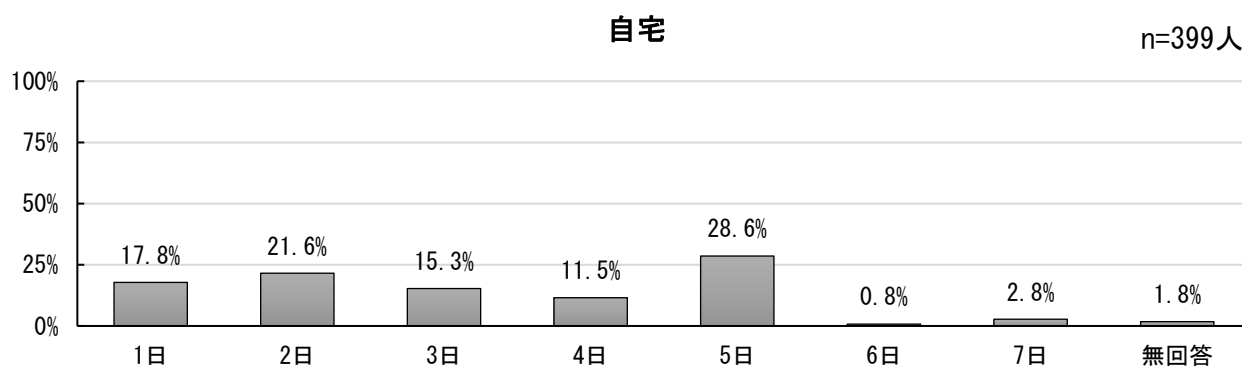
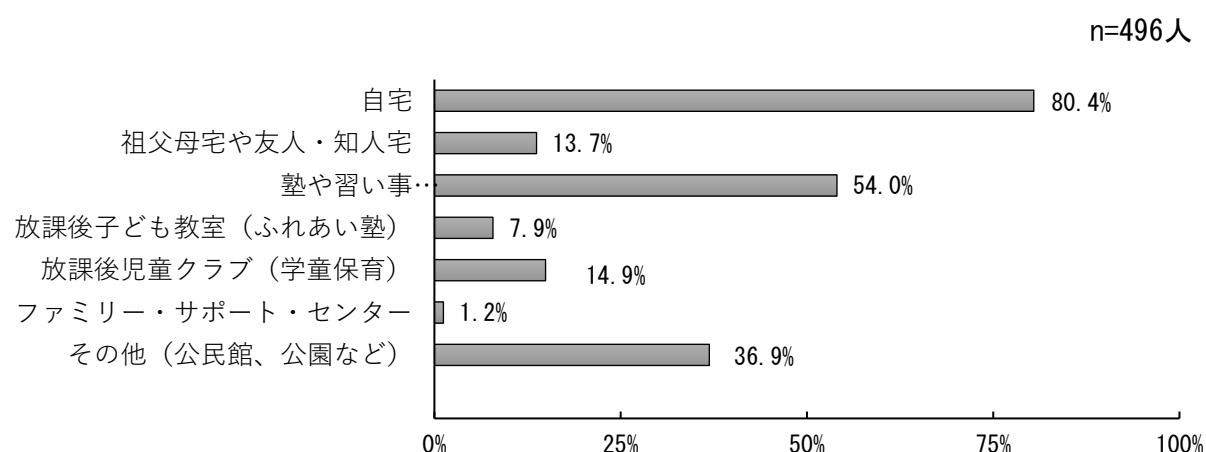


2 放課後の過ごし方の現状と学童保育所の利用希望

(1) 平日の放課後の過ごし方

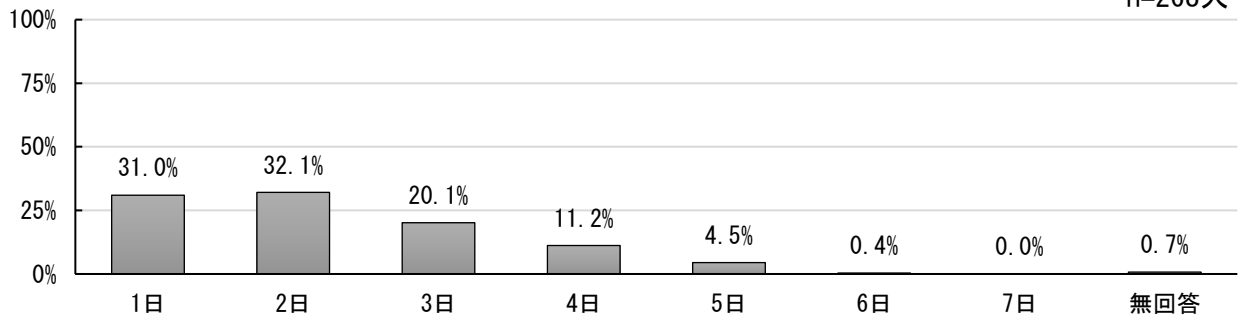
平日の放課後の過ごし方について、「自宅」が80.4%、「塾や習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が54.0%、「その他（公民館、公園など）」が36.9%となっている。

問4 放課後の過ごし方と日数



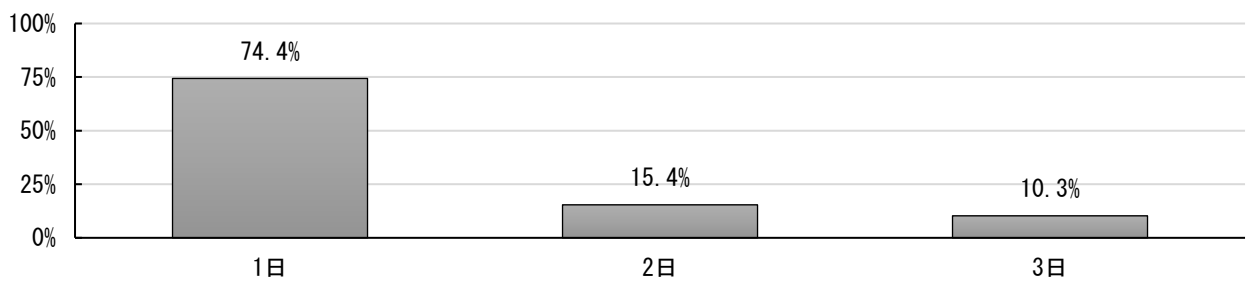
塾や習い事

n=268人



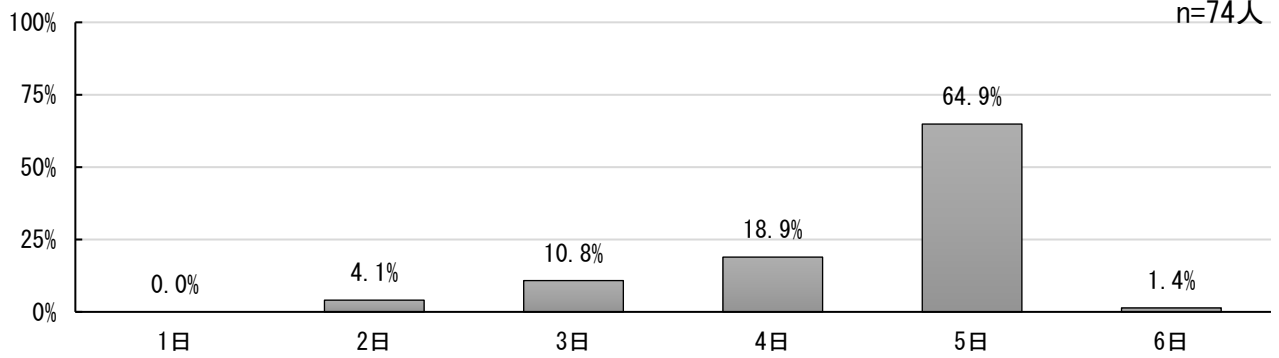
放課後子ども教室（ふれあい塾）

n=39人



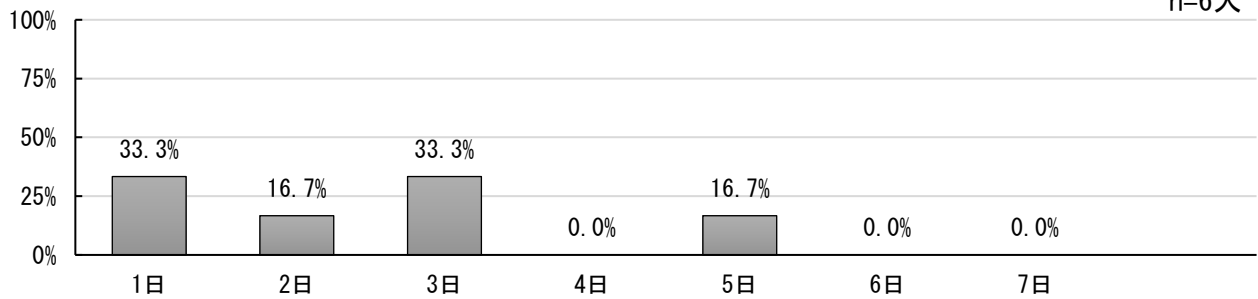
放課後児童クラブ（学童保育）

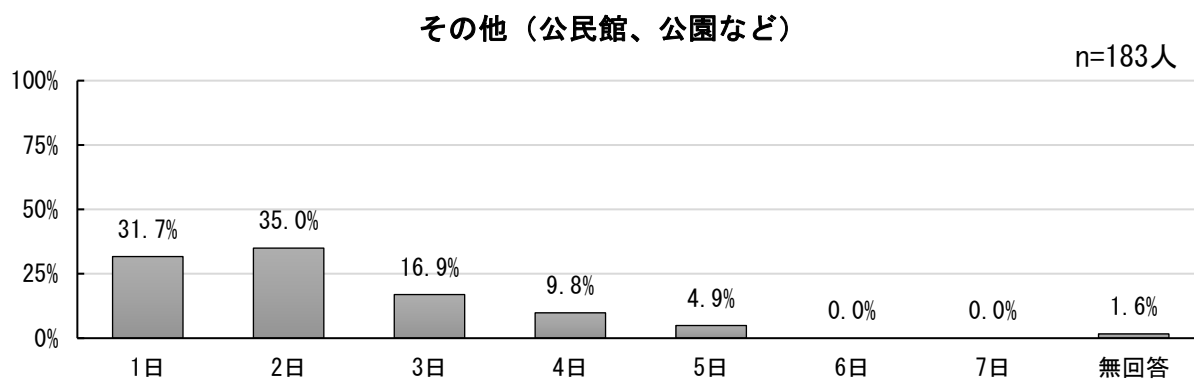
n=74人



ファミリー・サポート・センター

n=6人

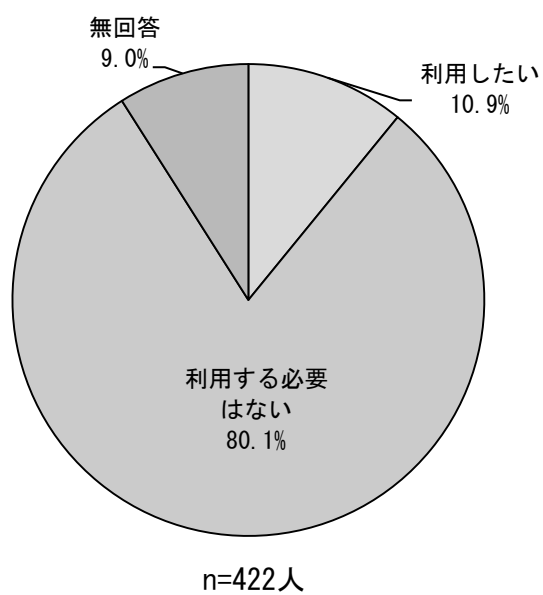




（２）平日の学童保育所利用希望

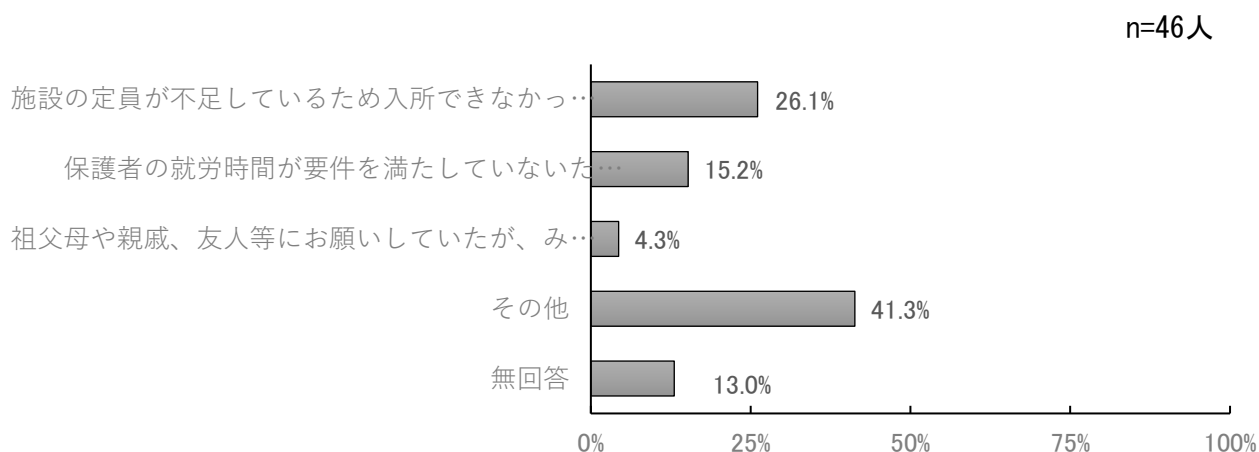
平日に放課後児童クラブ（学童保育）を利用していない人の利用希望について、「利用したい」が10.9%、「利用する必要はない」が80.1%となっている。

問 4-1 利用していない人の利用希望



平日に放課後児童クラブ（学童保育）を利用していない人で利用希望のある人の理由は、「施設の定員が不足しているため入所できなかったが、定員に余裕がほしい、入所したい」が26.1%、「保護者の就労時間が要件を満たしていないため、新たに就労先等の変更を考えている」が15.2%となっている。

問 4-2 利用していない人で利用希望のある人の理由

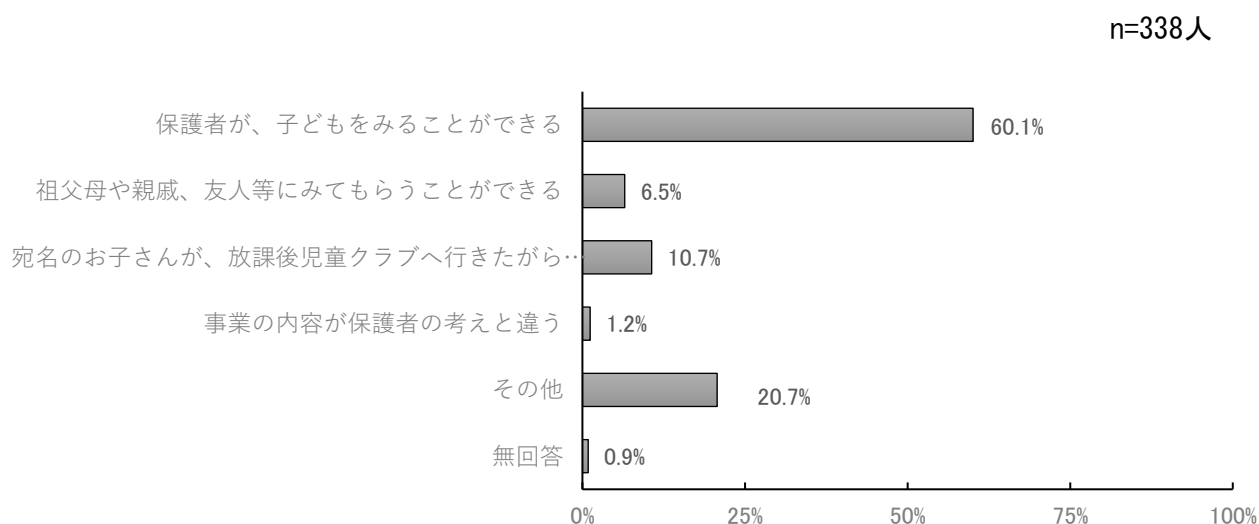


「その他」の主な理由

- ・今後就労した場合、子どもをみることができなくなるため

平日に放課後児童クラブ（学童保育）を利用していない人で利用希望のない人の理由は、60.1%が「保護者が、子どもをみることができる」と回答している。

問 4-3 利用していない人で利用希望のない人の理由



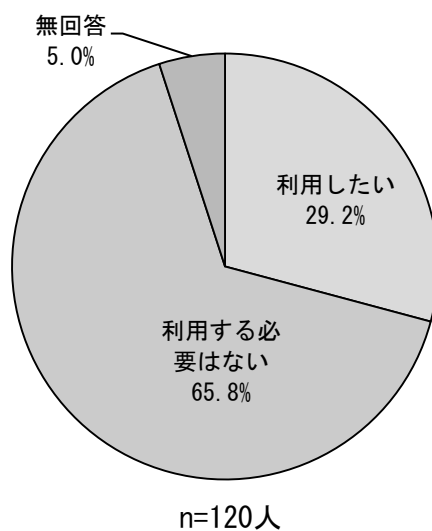
(3) 土曜日・休日の学童保育所利用希望

平日に放課後児童クラブ（学童保育）を利用している人または利用希望のある人の土曜日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望について、「利用したい」が29.2%、「利用する必要はない」が65.8%となっている。

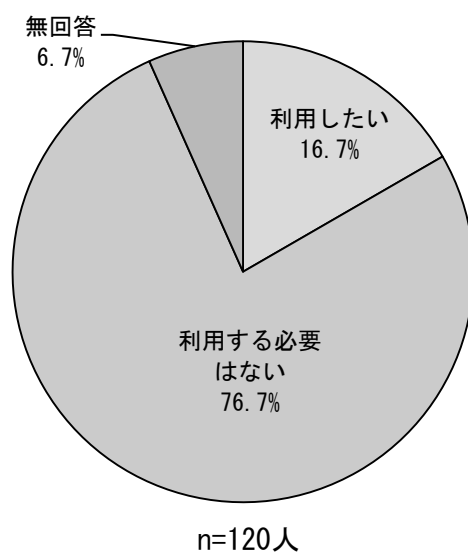
日曜日・祝日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用希望について、「利用したい」が16.7%、「利用する必要はない」が76.7%となっている。

問 5(1)～(2) 利用している人または利用したい人の土曜日と日曜日・祝日の利用希望

土曜日の利用希望



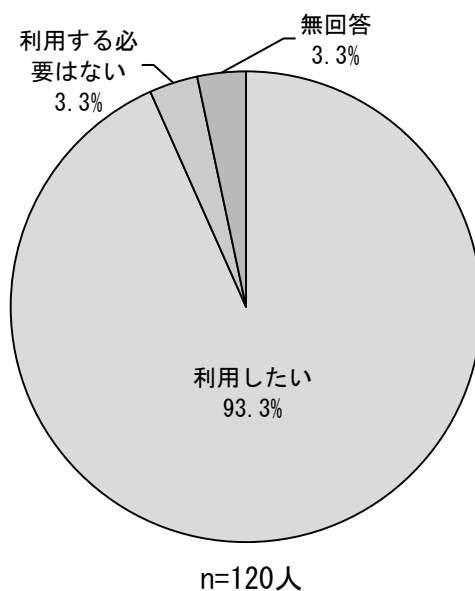
日曜日・祝日の利用希望



(4) 長期休暇中の学童保育所利用希望

利用希望のある人の長期休暇中の利用希望について、「利用したい」が 93.3%、「利用する必要はない」が 3.3%となっている。

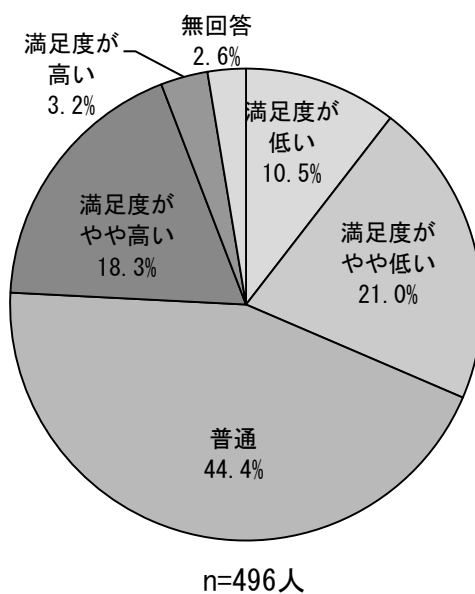
問 6 利用希望のある人の長期休暇中の利用希望



3 寒川町の子育ての環境や支援への満足度

満足度は「満足度が低い」「満足度がやや低い」の合算が 31.5%、「普通」が 44.4%、「満足度が高い」「満足度がやや高い」の合算が 21.5%となっている。

問 7 寒川町の子育ての環境や支援への満足度の状況



倉見幼稚園の認定子ども園化について

令和7年4月を目途に学校法人 礒川学園が運営する寒川町倉見にある私学助成を受ける幼稚園「倉見幼稚園」が幼稚園型認定こども園に移行する予定です。

町内の認定こども園開園は3施設目になりますが、幼稚園型認定こども園開園は町内で初めてになります。

1. 認定子ども園とは

教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の機能や特徴を併せ持つ施設です。

設置者は、認定こども園法による「認可」と、子ども・子育て支援法による「確認」を受ける必要があります。

「認可」は県が行い、「確認」は町が行います。

2. 事業者

寒川町倉見で倉見幼稚園を運営している学校法人 礒川学園

3. 現 況

昭和48年4月 個人立の私学助成を受ける幼稚園として開園。

昭和60年4月 学校法人 礒川学園を設立し、幼稚園を運営。

認可定員 265人

4. 開園予定日等

令和7年4月から開園予定。

一部園舎を残し、令和5年度、令和6年度の二か年で改修工事を実施。

5. 園 名

学校法人 礒川学園 倉見幼稚園

6. 所在地

寒川町倉見2299

今の倉見幼稚園の所在地と同じ場所

7. 利用定員予定等

定員予定	1号認定子ども (幼稚園部分)	2号認定子ども 3号認定子ども (保育所部分)	合 計
0歳児		0	0
1歳児		4	4
2歳児		6	6
3歳児	58	6	64
4歳児	74	6	80
5歳児	74	6	80
合 計	206	28	234

※ 1号認定子ども … 満3歳以上で保育の必要がない子ども
 2号認定子ども … 満3歳以上で保育の必要がある子ども
 3号認定子ども … 満3歳未満で保育の必要がある子ども